

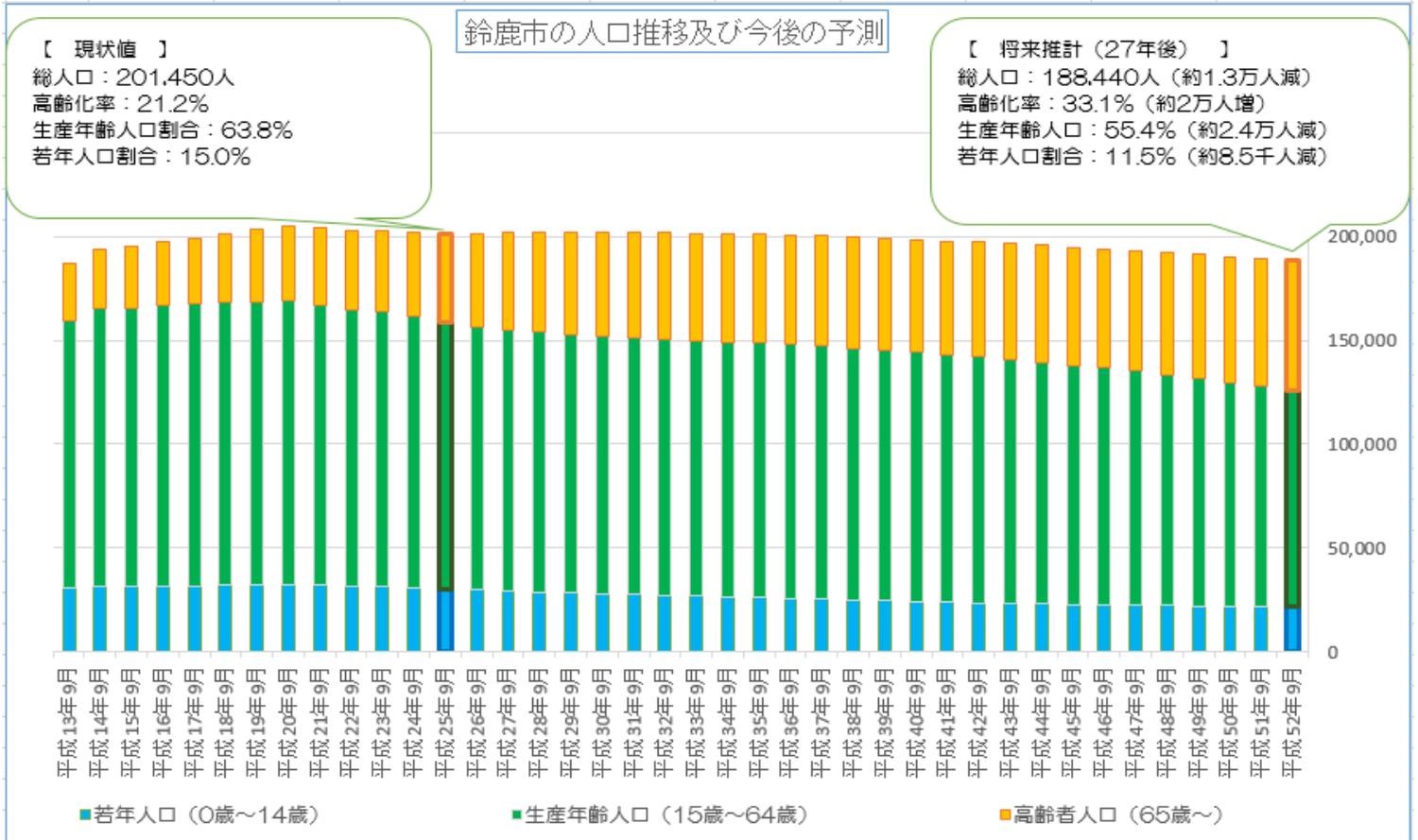
鈴鹿市の経営環境診断

平成26年10月

目次

防	都	環	教	保	産	内容	ページ
○	○	○	○	○	○	鈴鹿市の人口	1
○	○	○	○	○	○	鈴鹿市の人口（女性20～39歳）	2
○	○	○	○	○	○	歳入	3
○	○	○	○	○	○	歳出	4
○	○	○	○	○	○	地方債残高及び基金	5
				○		高齢化と社会保障費	6
				○		保育所入所数等	7
				○		要介護認定人数と要介護認定率	8
				○		介護サービス利用者数	9
				○		被保護世帯数等	10
				○		特定検診受診率・メタボリックシンドローム該当者	11
				○		一人当たりの医療費等	12
○				○		高齢者（65歳以上）の救急搬送	13
○						消防団員平均年齢	14
○	○				○	自動車保有台数	15
○	○					交通事故発生件数	16
○	○	○		○	○	公共交通機関（電車）の乗車人員数	17
○	○	○		○	○	公共交通機関（バス）の乗車人員数	18
○	○	○	○	○	○	公共施設の延床面積	19
○	○	○	○	○	○	公共施設延床面積の内訳	20
	○		○			公共施設（社会教育施設）延床面積	21
	○			○		公共施設（保健福祉・子育て支援施設）延床面積	22
	○					市道及び橋梁延長	23
	○					道路及び橋梁維持費	24
	○					水道管老朽化による水道管事故件数と累積損失額	25
	○					水道管耐水化率と管路更新事業費	26
	○					人口推移による水道の営業収益	27
					○	15歳以上就業者数	28
					○	産業別人口	29
					○	農業就業人口等	30
					○	2次産業事業所数	31
					○	2次産業事業規模別出荷額シェア及び事業所数シェア	32
					○	業種別付加価値額	33
					○	小売吸引力指数	34
	○				○	昼間人口と昼夜間人口比率	35
					○	観光レクリエーション入込客数等	36
			○			小学校及び中学校の児童生徒数	37
		○				ごみ排出量	38
○	○	○		○		空き家数・空き家率	39
○				○		自治会加入率	40
○	○	○	○	○	○	定員管理上の正規職員数	41
○	○	○	○	○	○	再任用職員数	42
○	○	○	○	○	○	平成26年度における職員の年齢構成	43

①グラフ



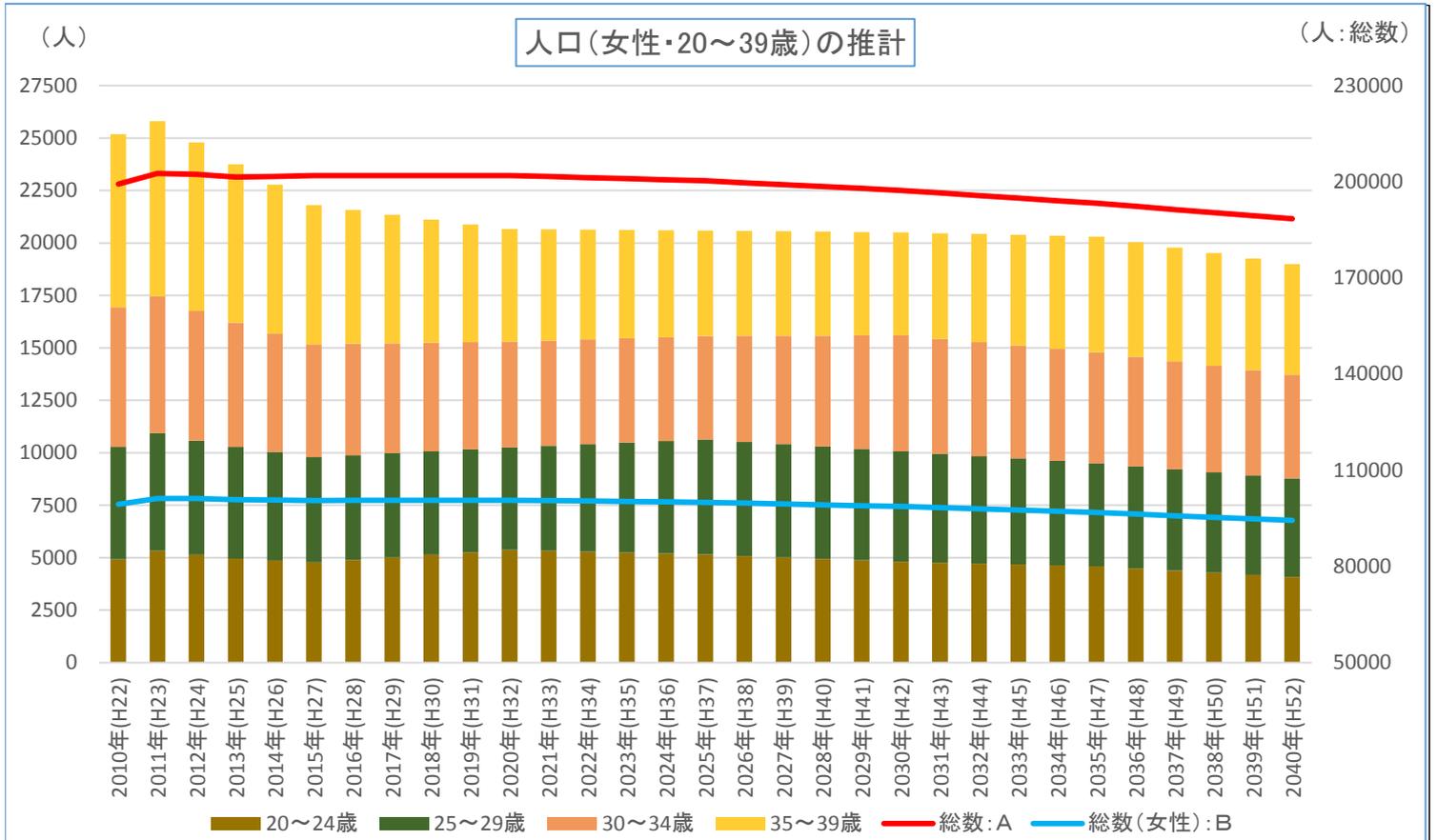
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	平成52年には、現在よりも人口が約1.3万人減少する一方、高齢者は約2万人増加し、高齢化率が33%を超えると予測される。
2	生産年齢人口及び若年人口の減少が続くと予測される。
3	

①グラフ



(データ出典元)

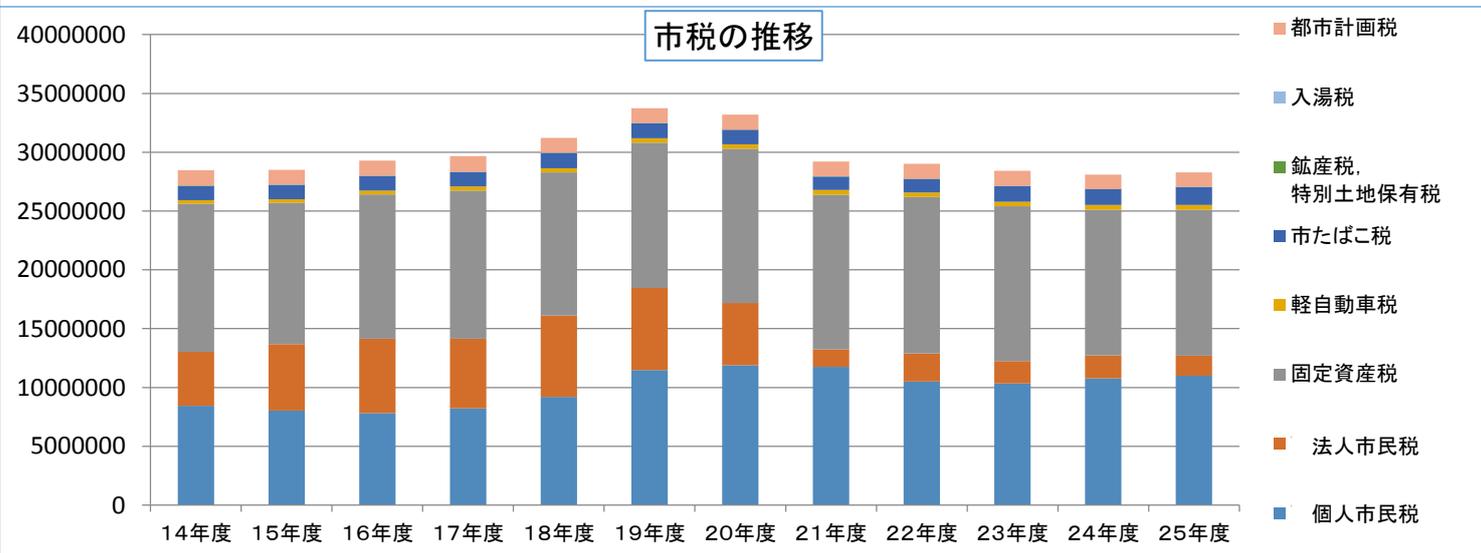
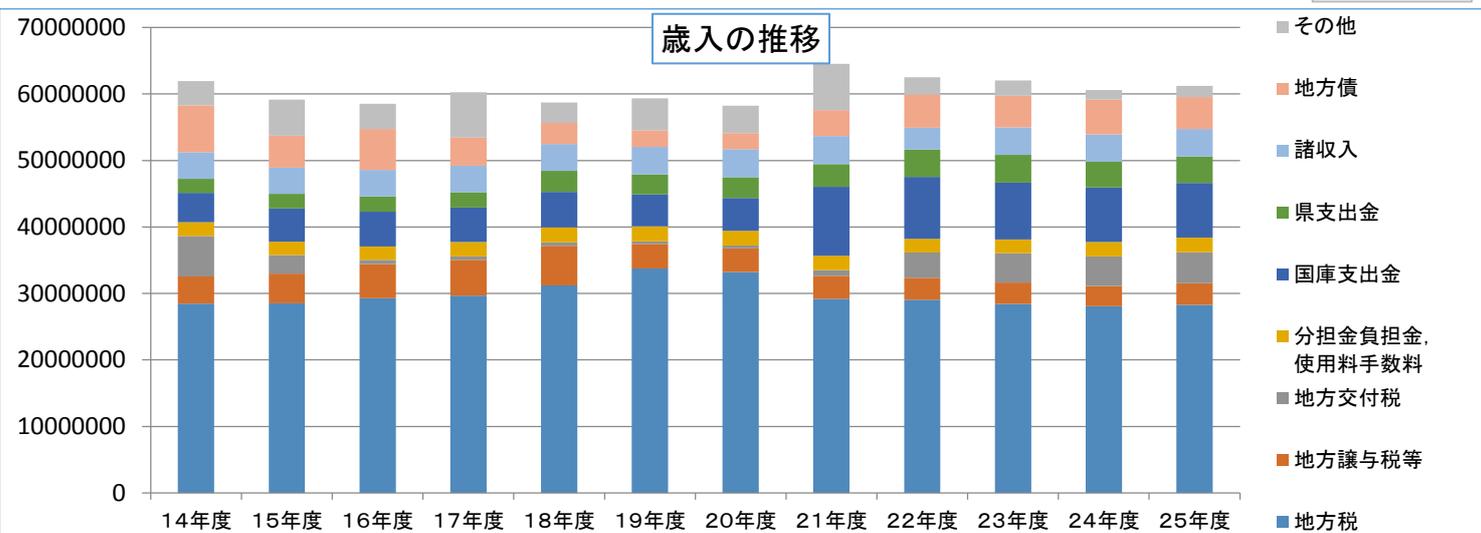
NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	日本創成会議では将来人口の推計に際して、20～39歳の女性の人数が、2010年から40年にかけて5割以下に減る自治体を消滅可能性都市に選んだ。鈴鹿市においては、消滅可能性都市には含まれていないものの、対象となる女性の人数は減少傾向にある。
2	
3	

①グラフ

(千円)



(データ出典元)

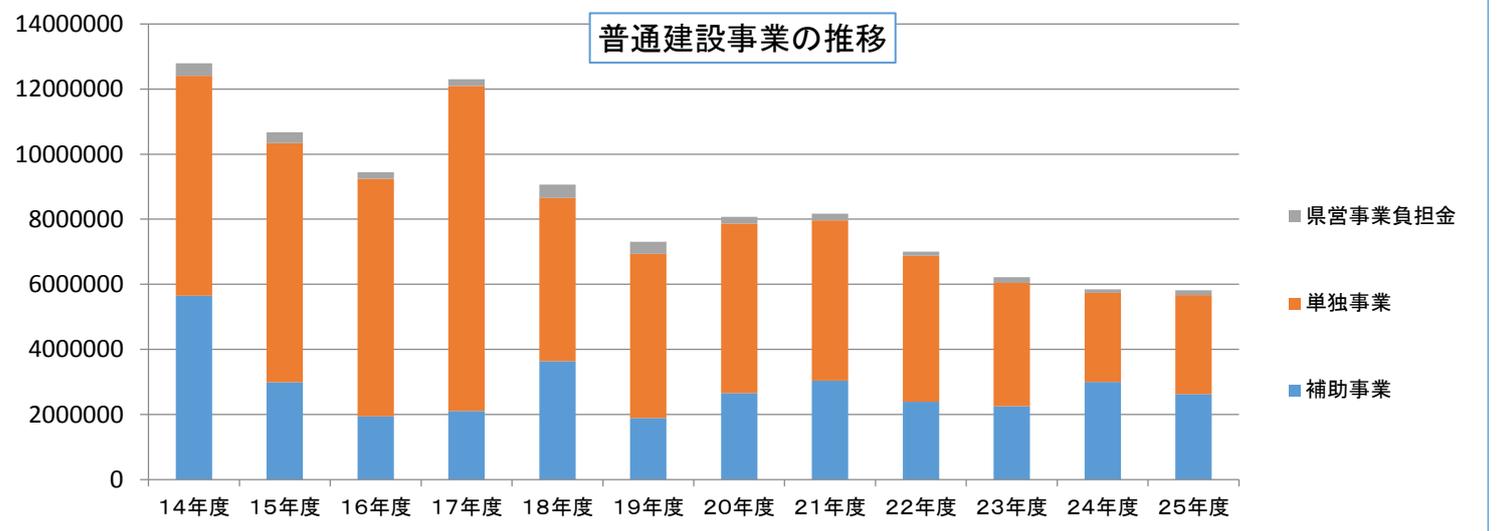
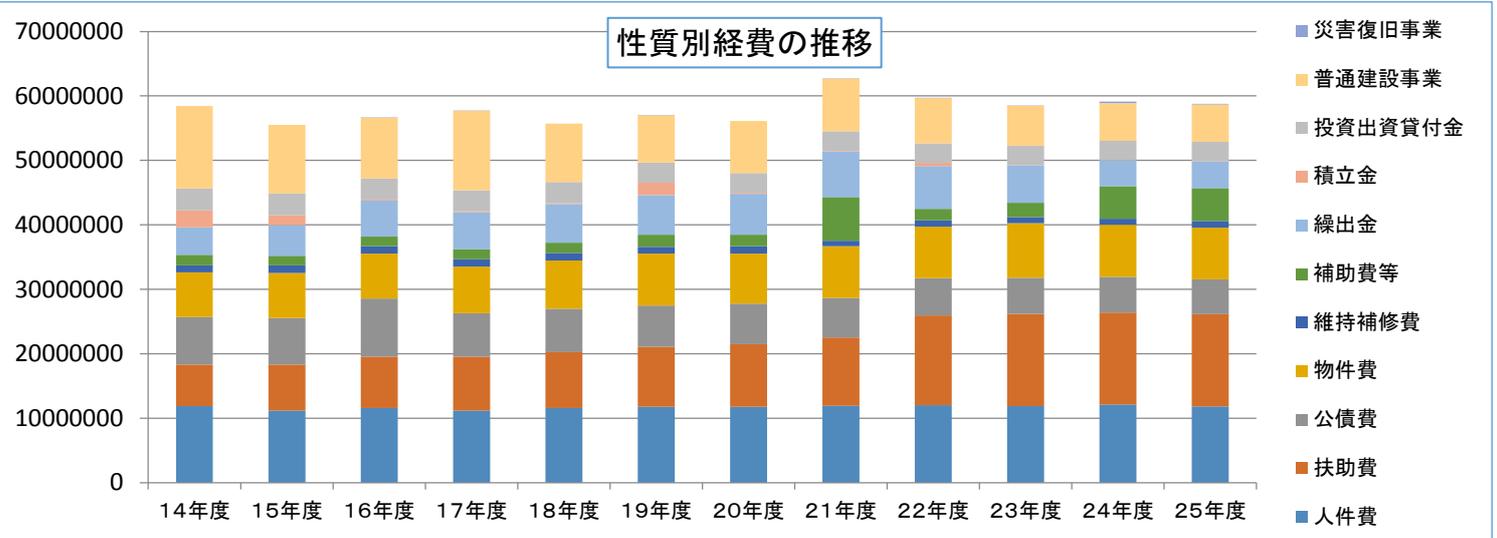
NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	地方財政状況調査	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	市税の額が低い水準で推移している。
2	平成20年度から法人市民税が減少している。
3	

①グラフ

(千円)



(データ出典元)

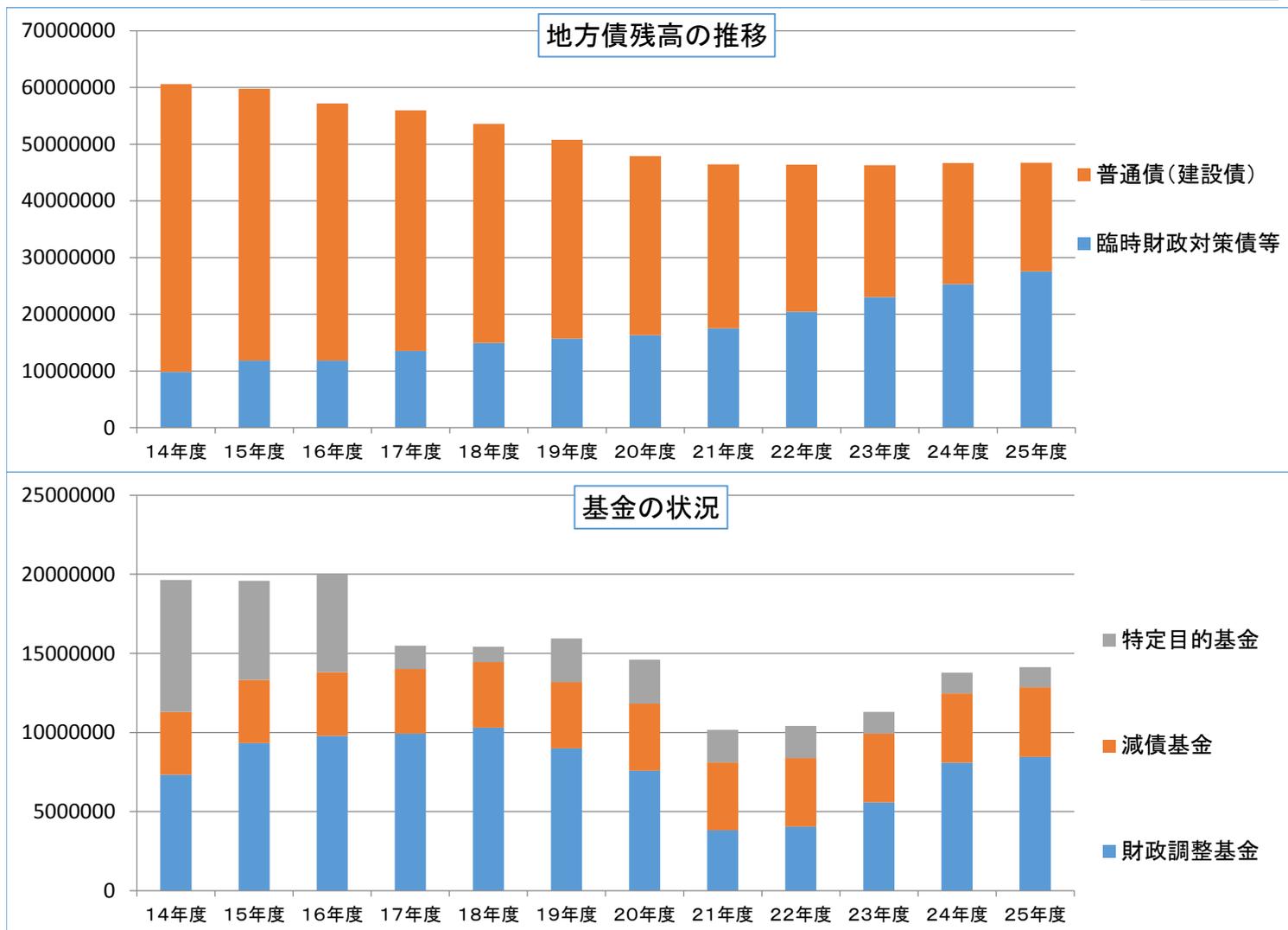
NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	地方財政状況調査	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	性質別経費の推移において、扶助費が増加傾向にある。
2	普通建設事業において、補助事業は一定の数値で推移しているものの、単独事業は減少傾向にある。
3	

①グラフ

(千円)



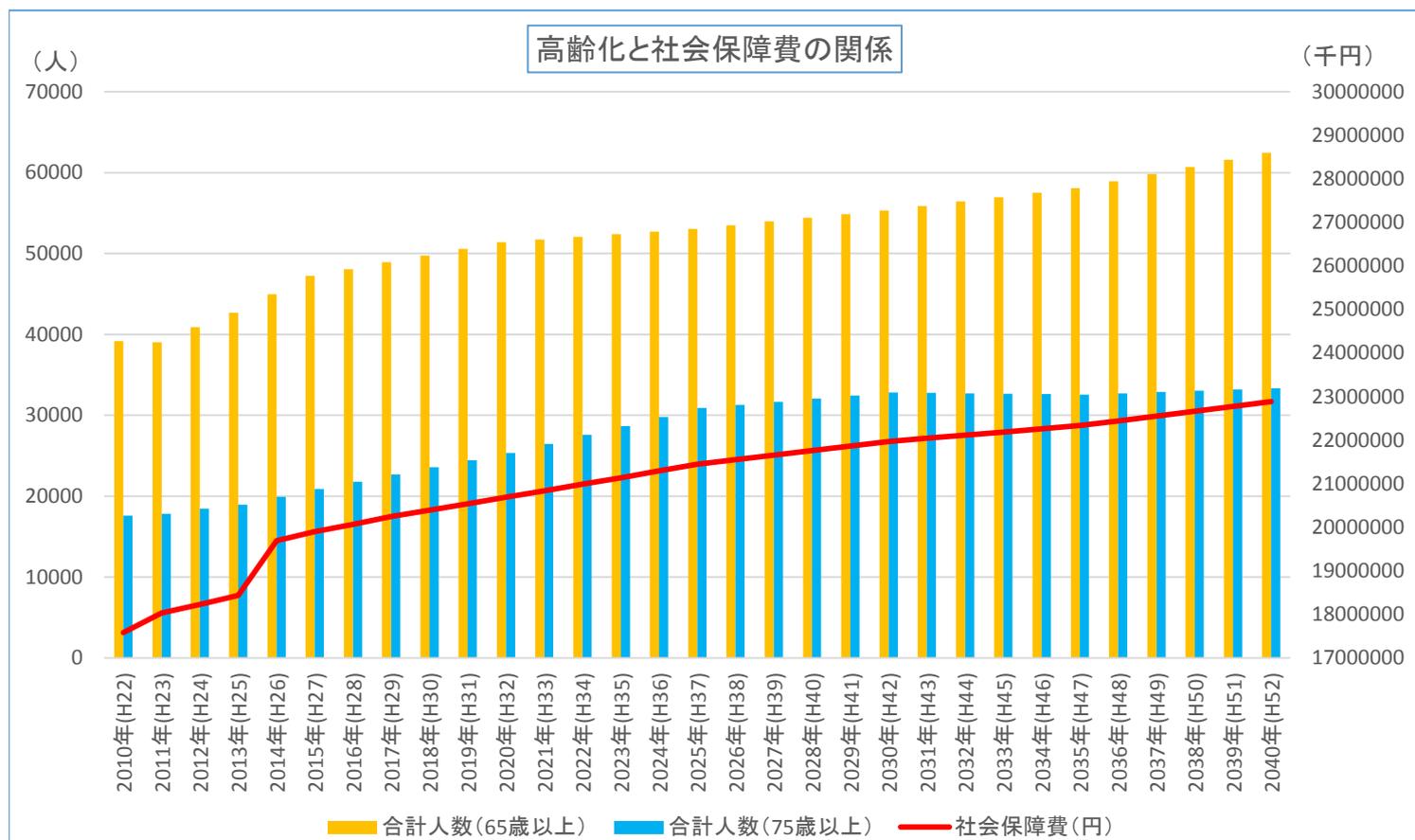
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	地方財政状況調査	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	地方債残高において、普通債が減少傾向にあるものの、地方の財源不足を補う臨時財政対策債等は増加傾向にある。
2	基金において、平成21年度はリーマンショックの影響により財政調整基金が大きく減少したが、その後徐々に回復している。
3	

①グラフ



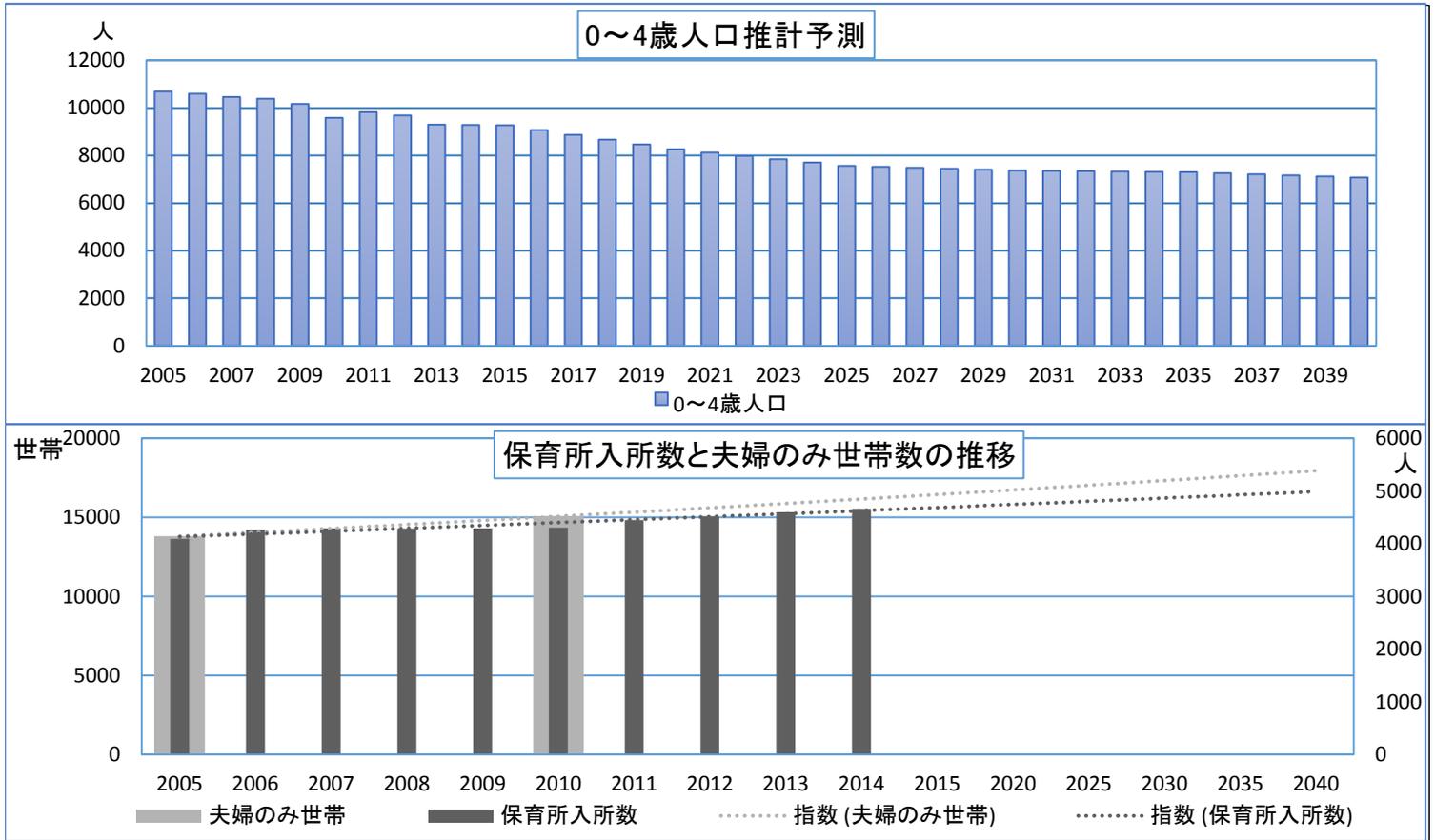
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	高齢者の人数と比例して、社会保障費についても増加が続いていくものと予測される。
2	
3	

① グラフ



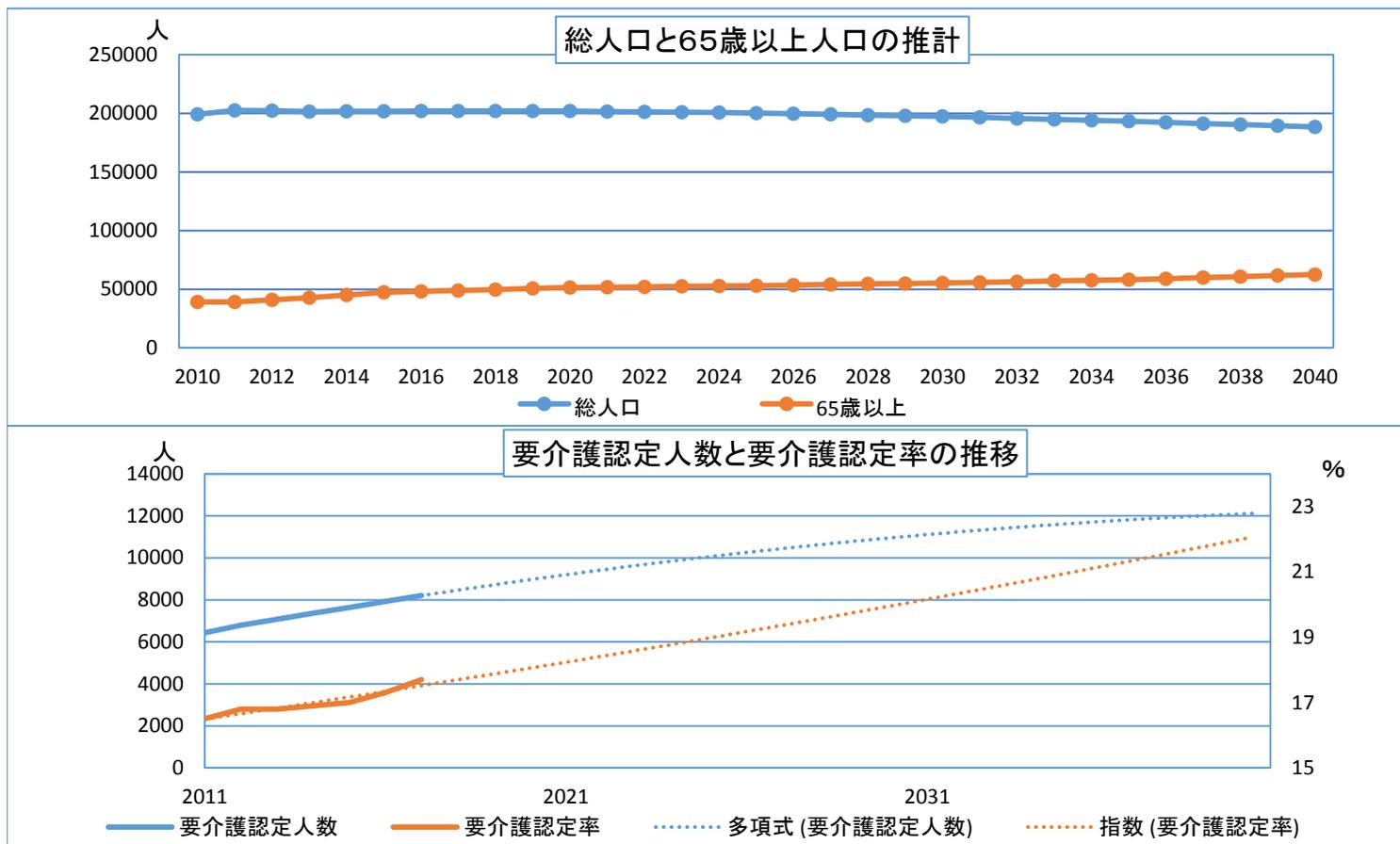
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	
2	鈴鹿市	鈴鹿市次世代育成支援行動計画(後期計画)平成22年3月	P15 5. 園児の状況(H14~H18)
		児童保育課資料:園児の状況(H19~H26)	
		鈴鹿市次世代育成支援行動計画(後期計画)平成22年3月	P11 2. 世帯の状況(4) 夫婦だけの世帯数

② グラフから読み取れること

NO.	内容
1	人口推計予測による0歳~4歳人口の減少予想から、保育所入所対象者数の減少も予測される。
2	夫婦のみの世帯数は2005年から2010年にかけて増加している。それに併せて現状では保育所入所者数についても増加傾向にある。
3	

①グラフ



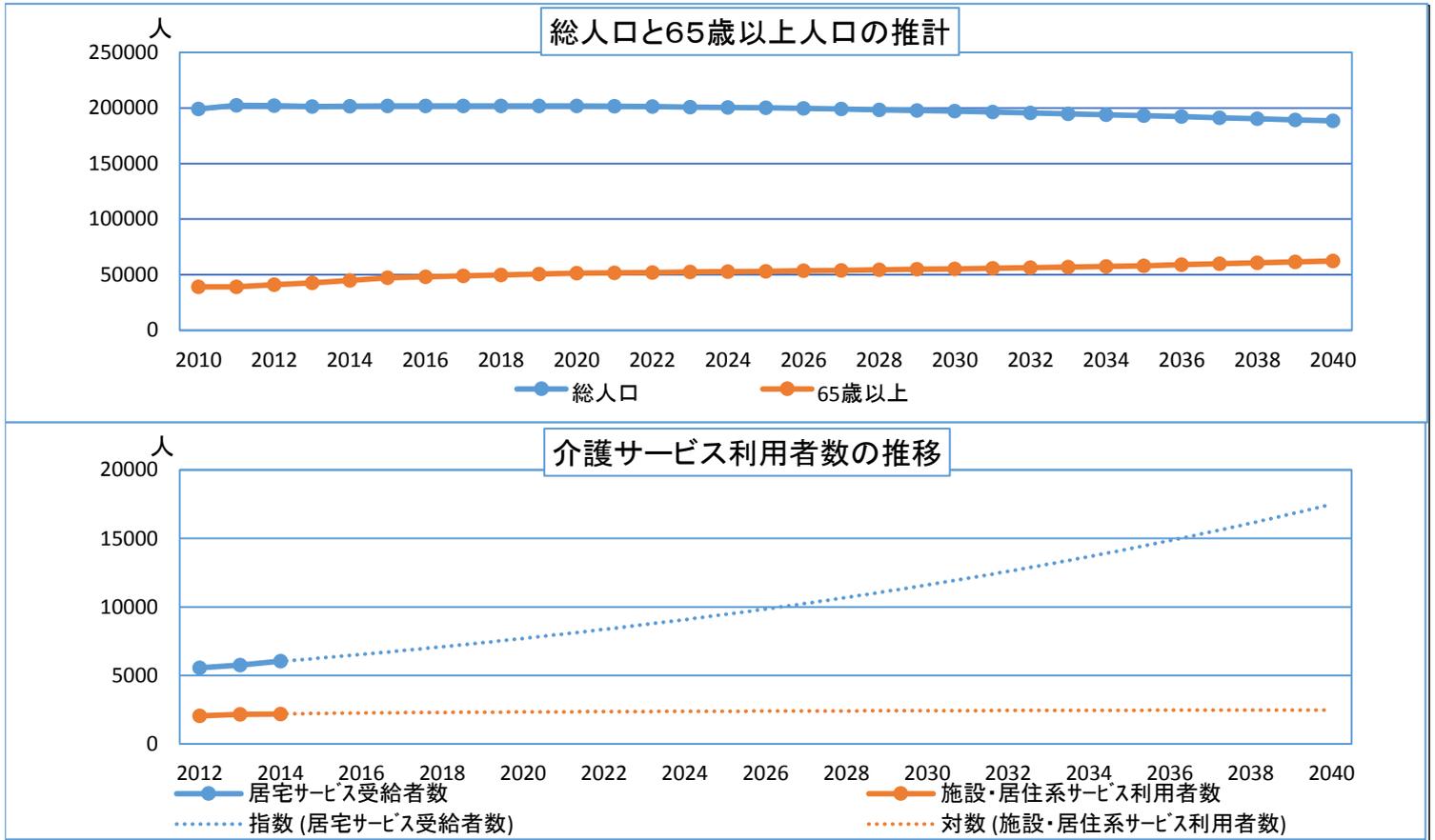
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	
2	鈴鹿市	鈴鹿市高齢者福祉計画	要支援・要介護認定者数と認定率の推移(P10)

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	65歳以上の高齢者が増加を続ける中、要支援・要介護認定者も増加を続けている。
2	要支援・要介護認定者の増加とともに、要支援・要介護認定率も上昇すると予測される。
3	

①グラフ



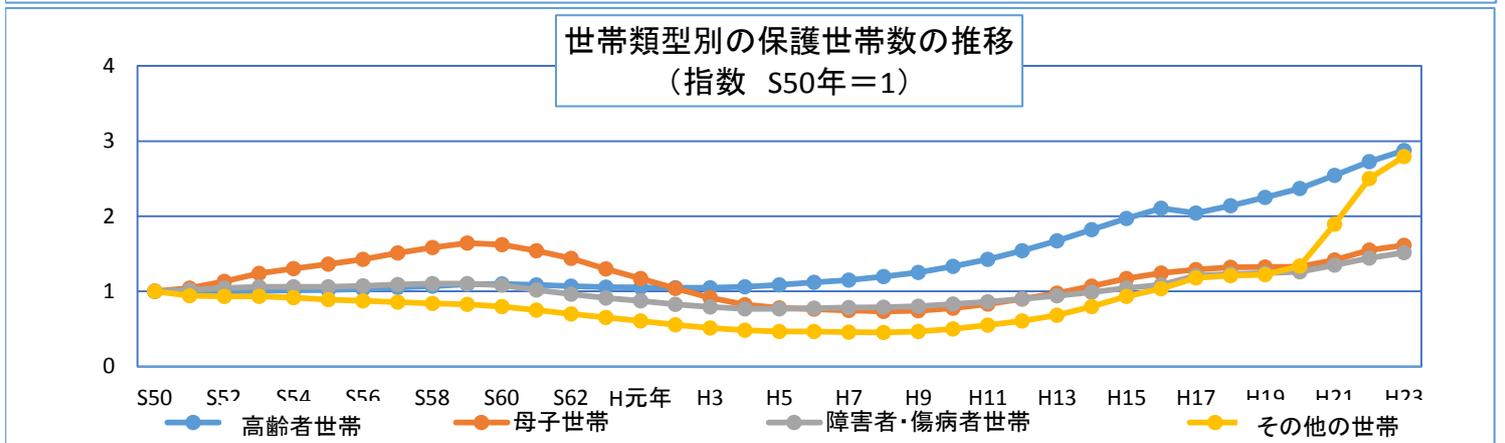
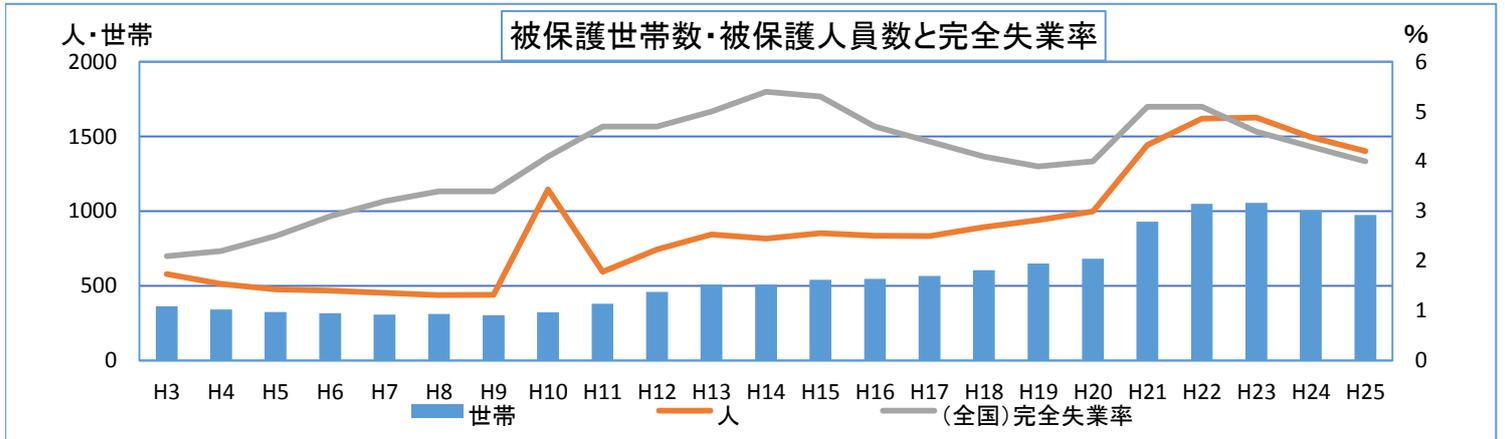
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	
2	鈴鹿亀山地区広域連合	第5期介護保険事業計画	居宅サービス受給対象者数と受給者数P30, 施設・居住系サービス利用者数推計P37

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	介護サービス利用者について、施設・居住系サービス利用者数よりも居宅サービス受給者の利用者数の方が多い。
2	
3	

①グラフ



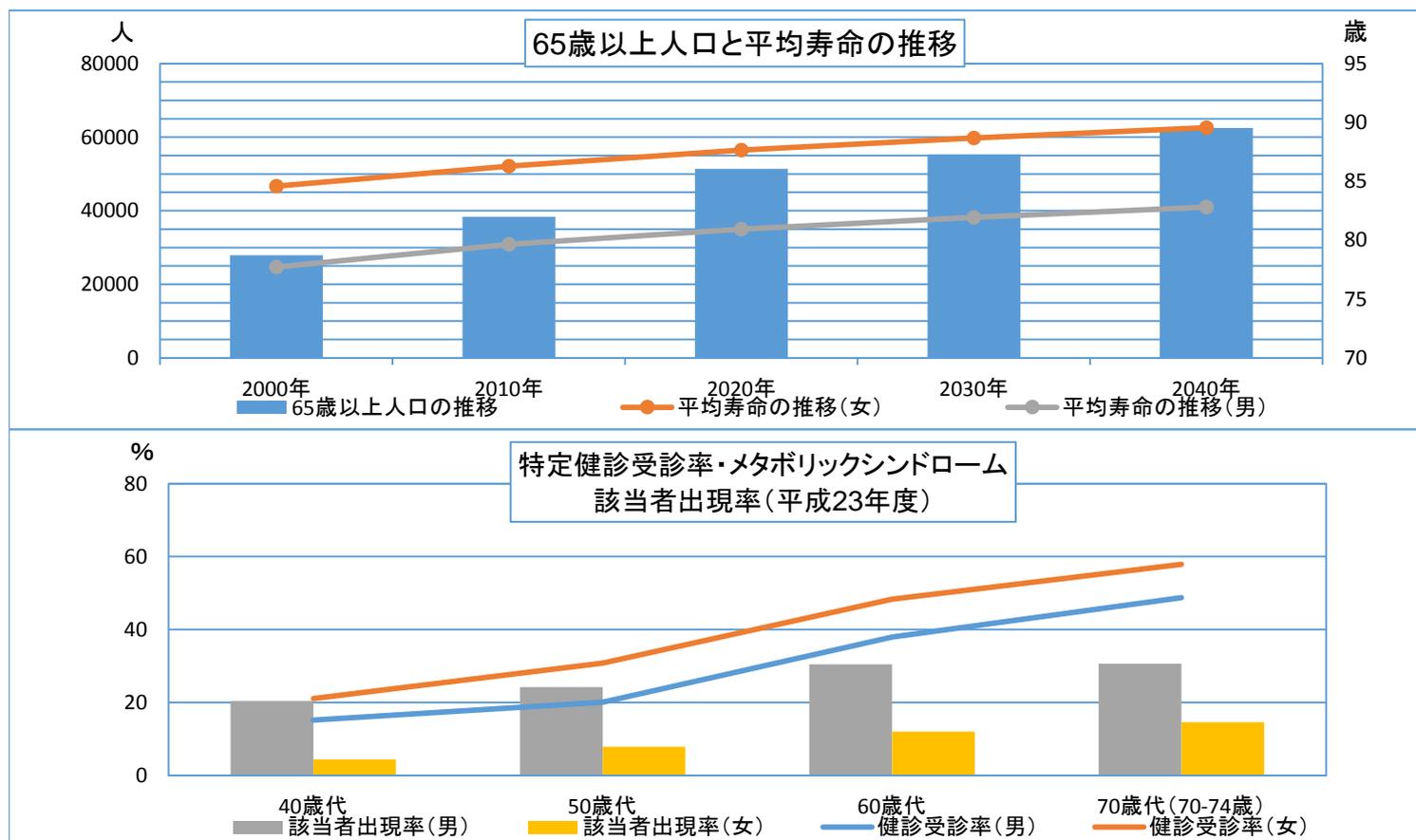
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	三重県	統計書・累年統計表	社会保障-78生活保護法による扶助状況(昭和35年度~)
2	総務省統計局	年齢階級(5歳階級)別完全失業者数及び完全失業率 - 全国	労働力調査 長期時系列データ
3	国立社会保障・人口問題研究所	社会保障統計年報(「生活保護」に関する公的統計データ一覧)	世帯類型別被保護世帯数及び世帯保護率の年次推移

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	平成15年から平成20年までは、完全失業率が減少しているにもかかわらず被保護世帯数が増加してきた。平成21年以降、急激な社会情勢の悪化により被保護世帯数は大幅に増加したが、平成24年以降は完全失業率の低下に合わせて減少傾向にある。
2	高齢者世帯は右肩上がりで増加しており、その他世帯も近年急増している。

① グラフ



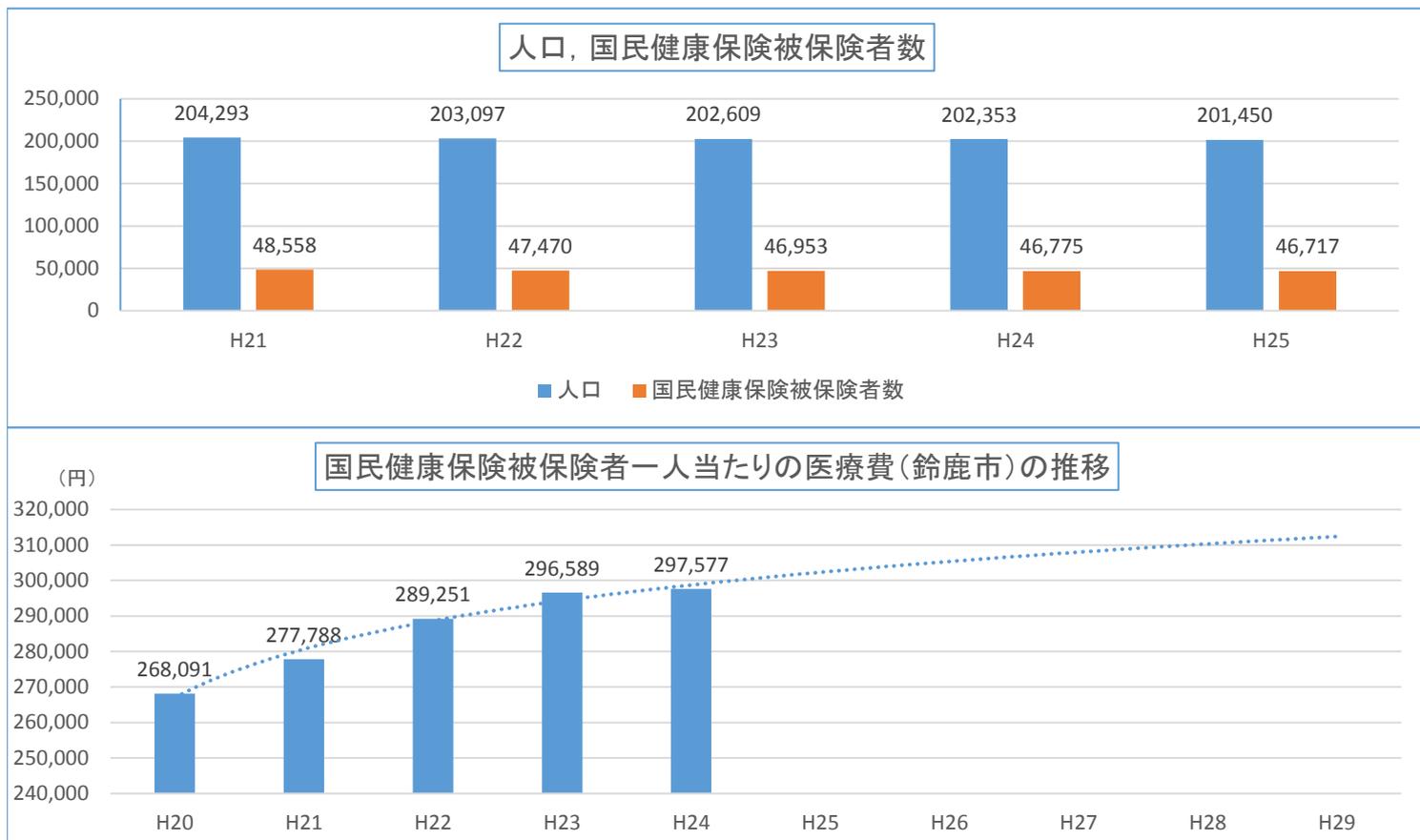
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	
2	内閣府	平成25年度版高齢社会白書	将来推計人口でみる50年後の日本(平均寿命)
3	鈴鹿市	第2期鈴鹿市特定健康診査等実施計画	メタボリックシンドローム該当者の状況 特定健診受診状況

② グラフから読み取れること

NO.	内容
1	特定健診受診率及びメタボリックシンドローム該当者出現率は、高齢になるほど高い傾向にある。
2	
3	

①グラフ



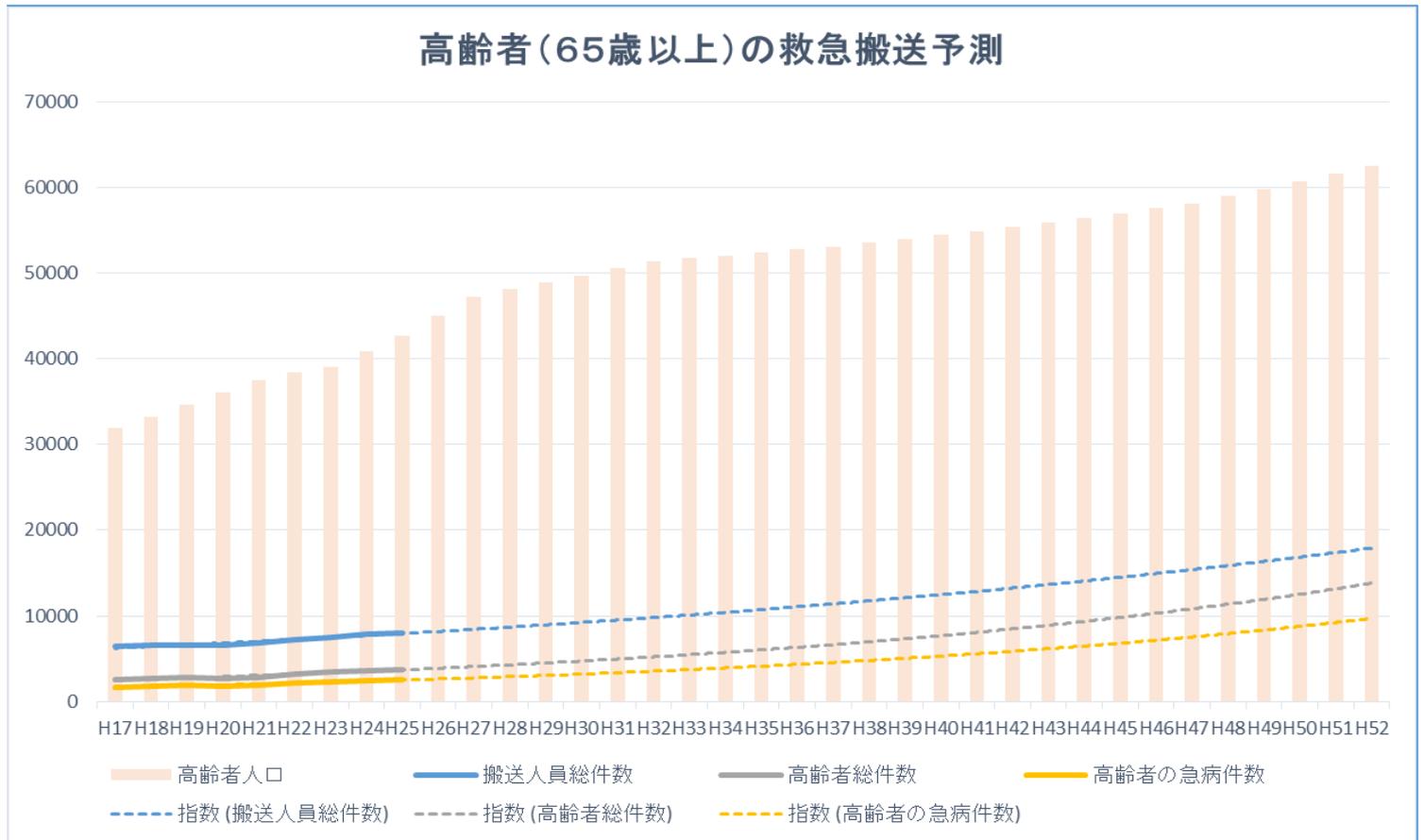
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	住民基本台帳, 外国人登録及び庁内資料(各年9月末)	
2	三重県	三重県における国民健康保険事業の実態, 三重県国民健康保険団体連合会資料	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	過去5年間に於いて, 人口の減少とともに国民健康保険被保険者数も減少している。
2	国民健康保険被保険者数は減少しているが, 一人当たりの医療費は増加傾向にある。
3	

①グラフ



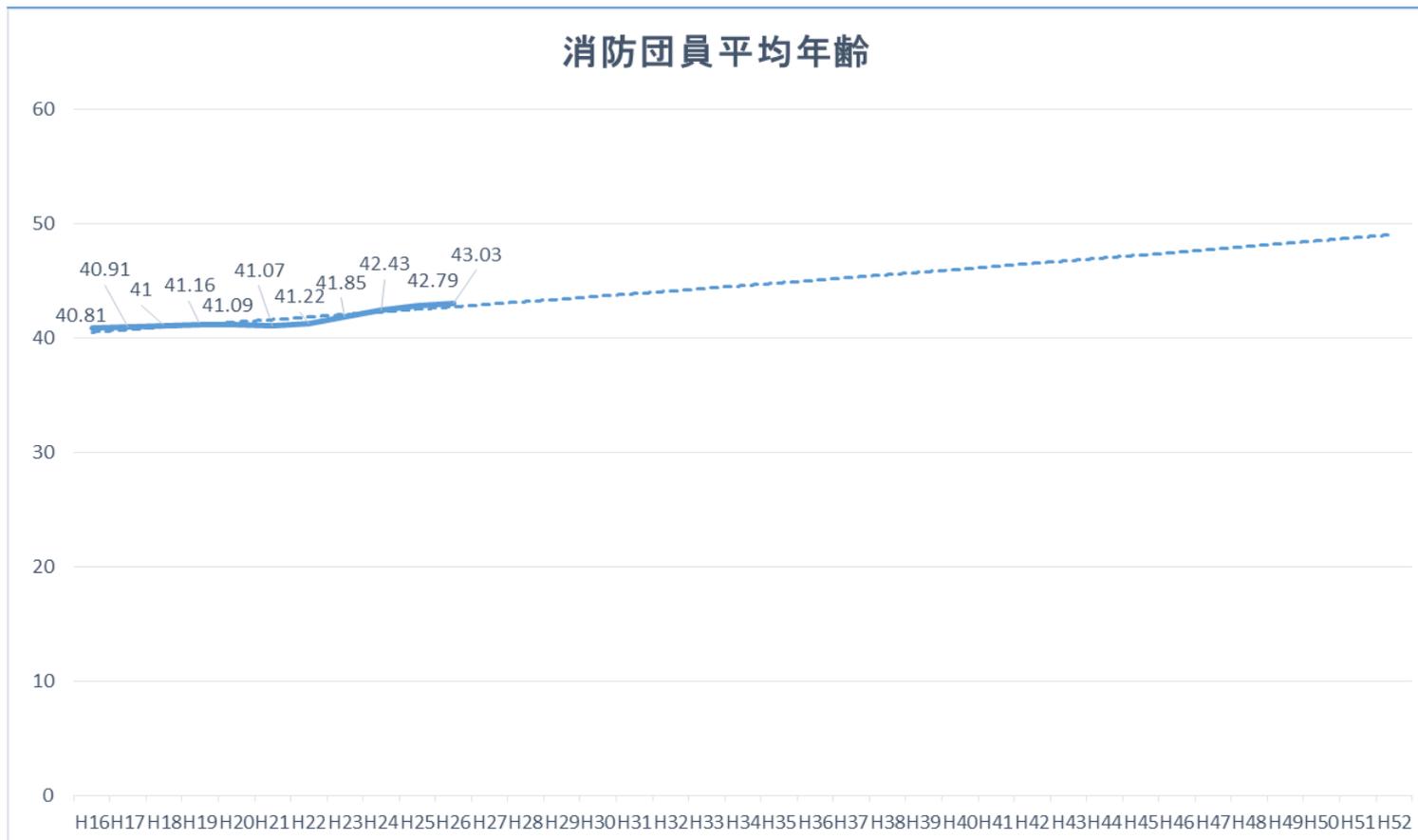
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市消防本部	救急統計	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	救急搬送人員総件数における高齢者搬送件数の占める割合は、平成17年が40.8%であったが、平成25年は47%に至っており、高齢者の救急搬送需要が増加している。
2	
3	

①グラフ



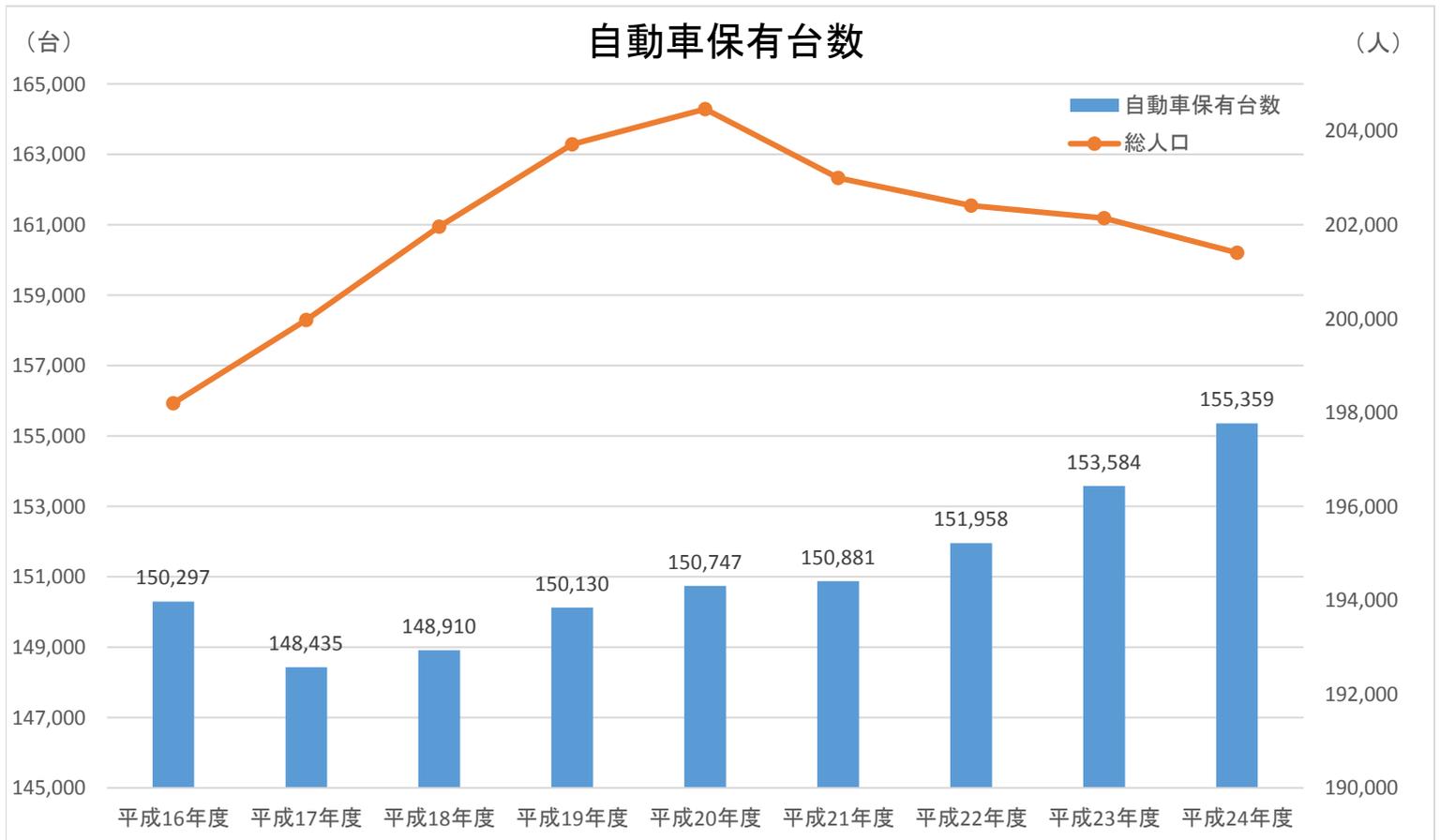
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市消防本部	消防年報	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	消防団員の高齢化が年々進んでおり、今後も引き続くものと予測される。
2	
3	

①グラフ



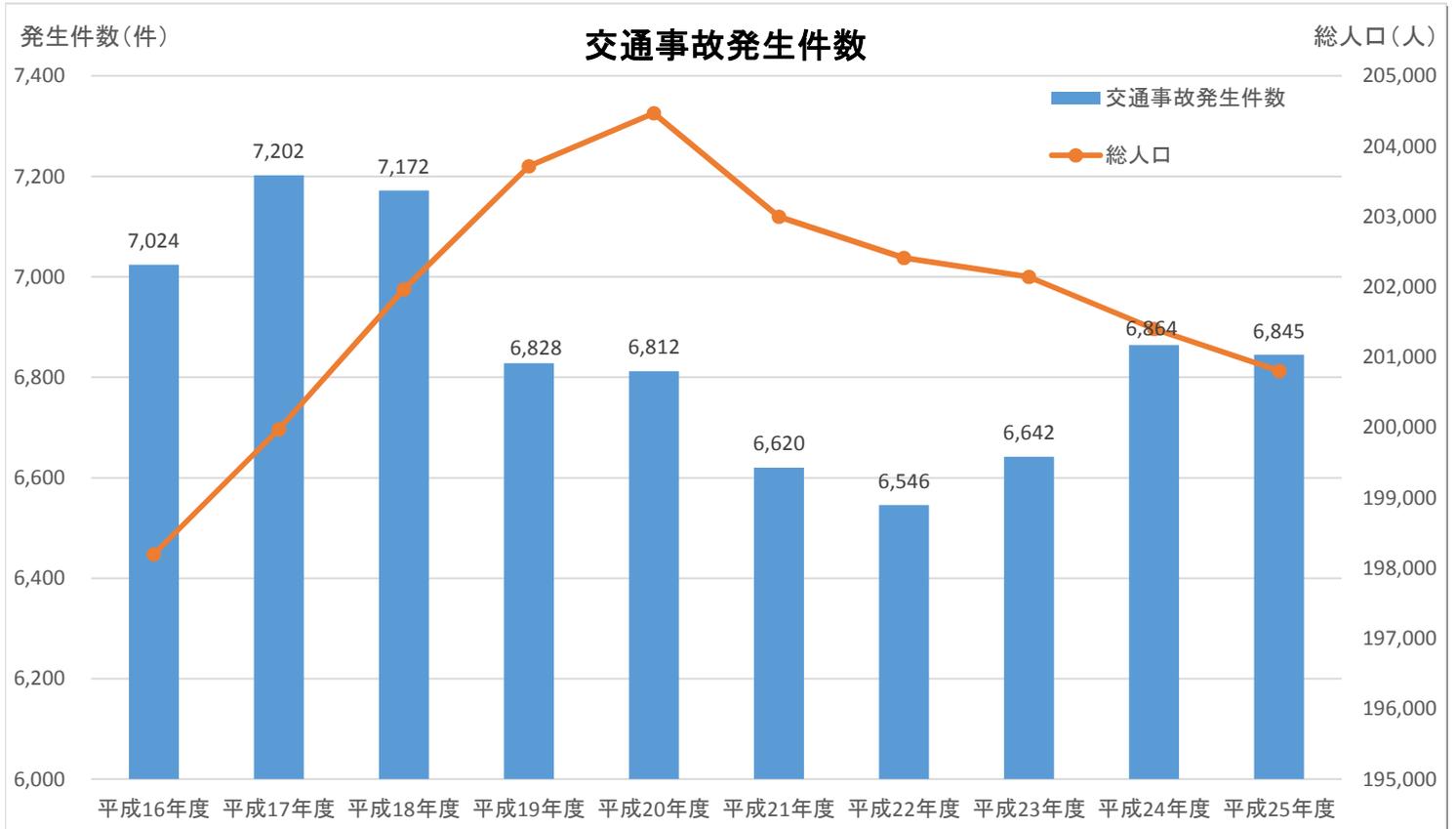
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	三重県	三重県統計書	運輸・通信部門
2	鈴鹿市	統計要覧	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	総人口は平成20年度以降、減少傾向にある一方で、自動車保有台数は平成17年度以降増加傾向にある。
2	
3	

① グラフ



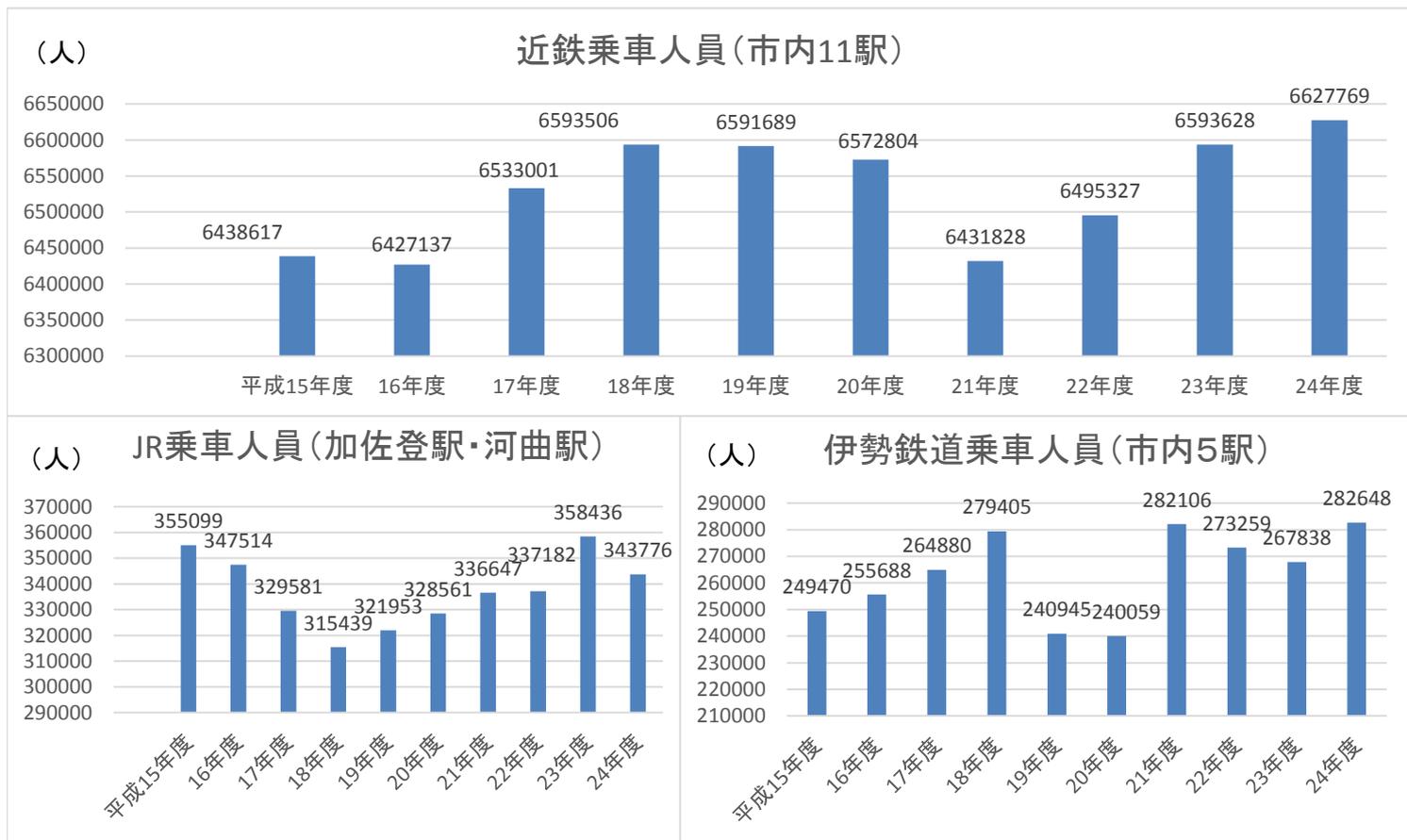
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
	生活安全部 地域課	鈴鹿市交通事故の推移	
	企画財務部 企画課	人口統計	

② グラフから読み取れること

NO.	内容
1	平成22年以降、人口の減少と反比例して交通事故件数は増加傾向にある。
2	
3	

①グラフ



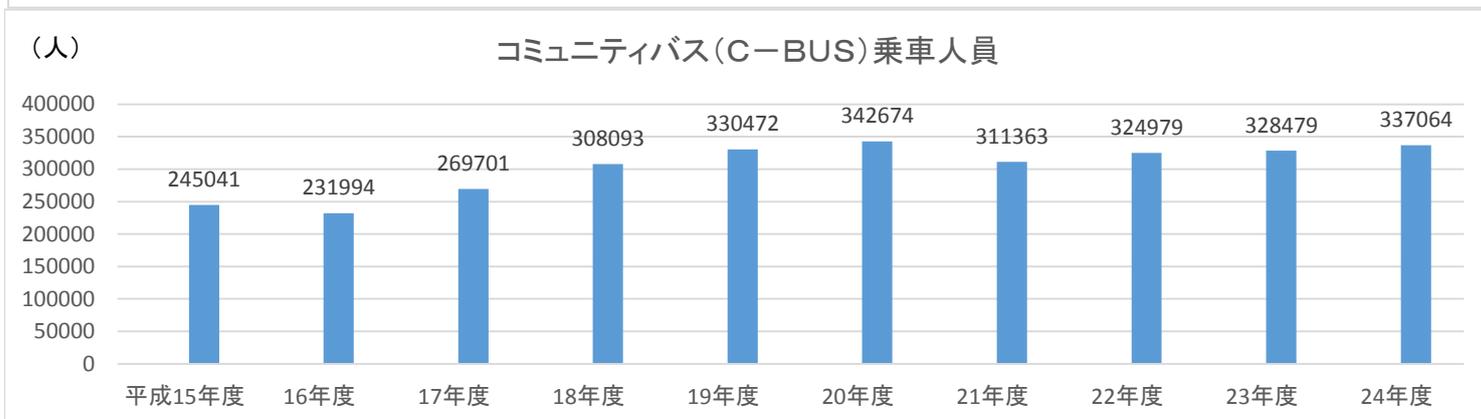
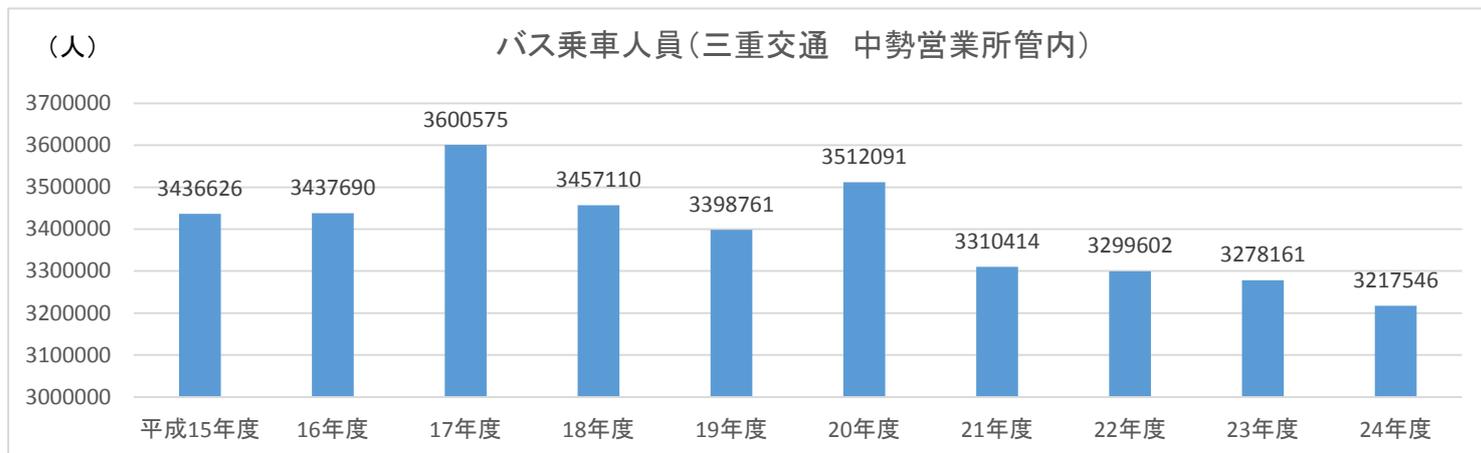
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	統計要覧	
2			
3			

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	近鉄の乗車人員(市内11駅)については、平成21年度に前年から14万人程度減少するが、その後は増加傾向にある。
2	JRの乗車人員(加佐登駅・河曲駅)については平成19年度以降、増加傾向にあったが、平成24年度は前年度に比べ1万5,000人程度減少した。
3	伊勢鉄道の乗車人員(市内5駅)については平成22年度以降減少傾向にあったが、平成24年度は前年度に比べ1万5,000人程度増加した。

①グラフ



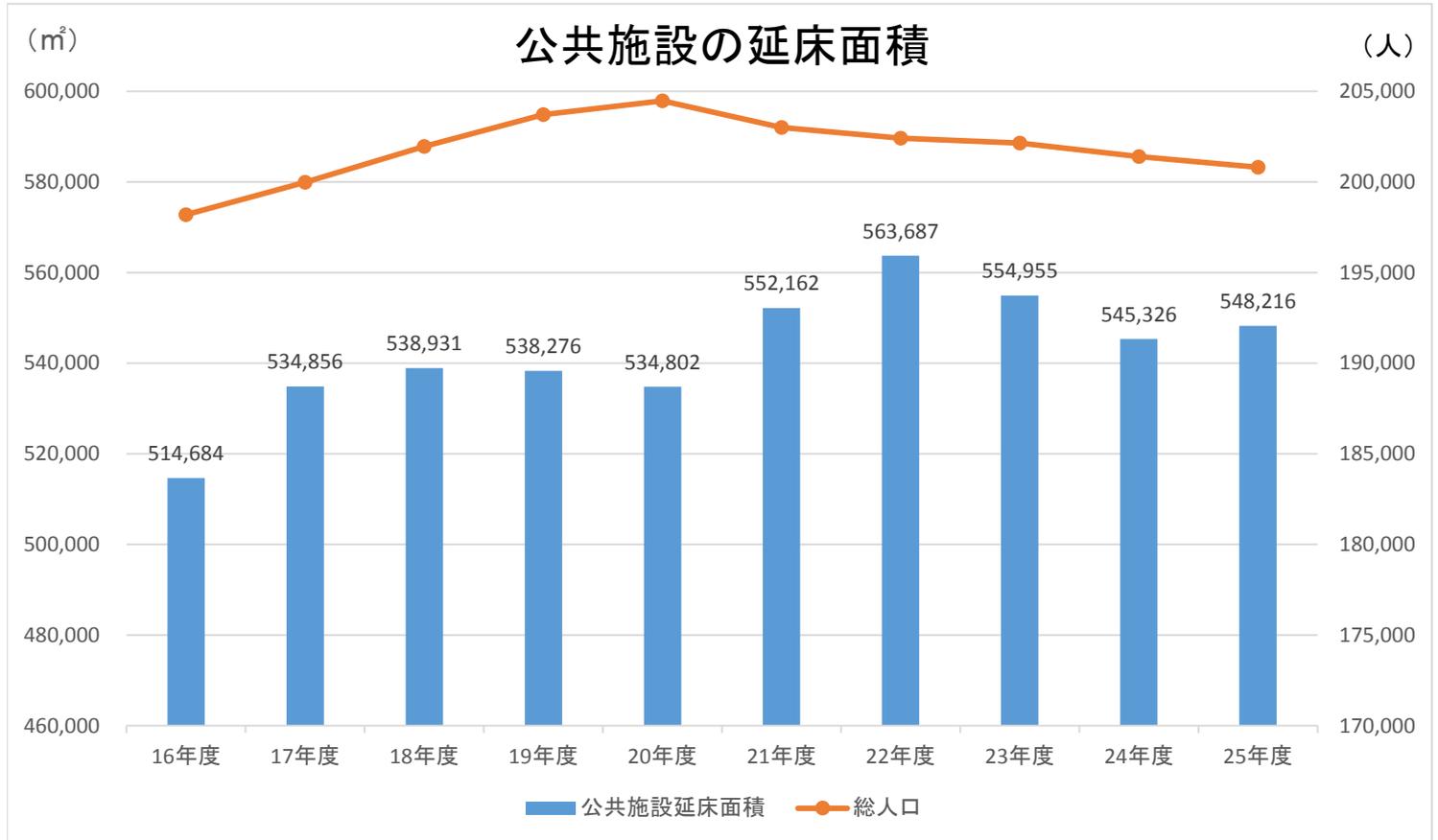
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	統計要覧	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	三重交通中勢営業所管内のバス乗車人数は、概ね減少傾向にある。
2	C-BUSのバス乗車人数は、平成21年度に前年から約3万人減少したが、それ以降は少しずつではあるが増加傾向にある。
3	

①グラフ



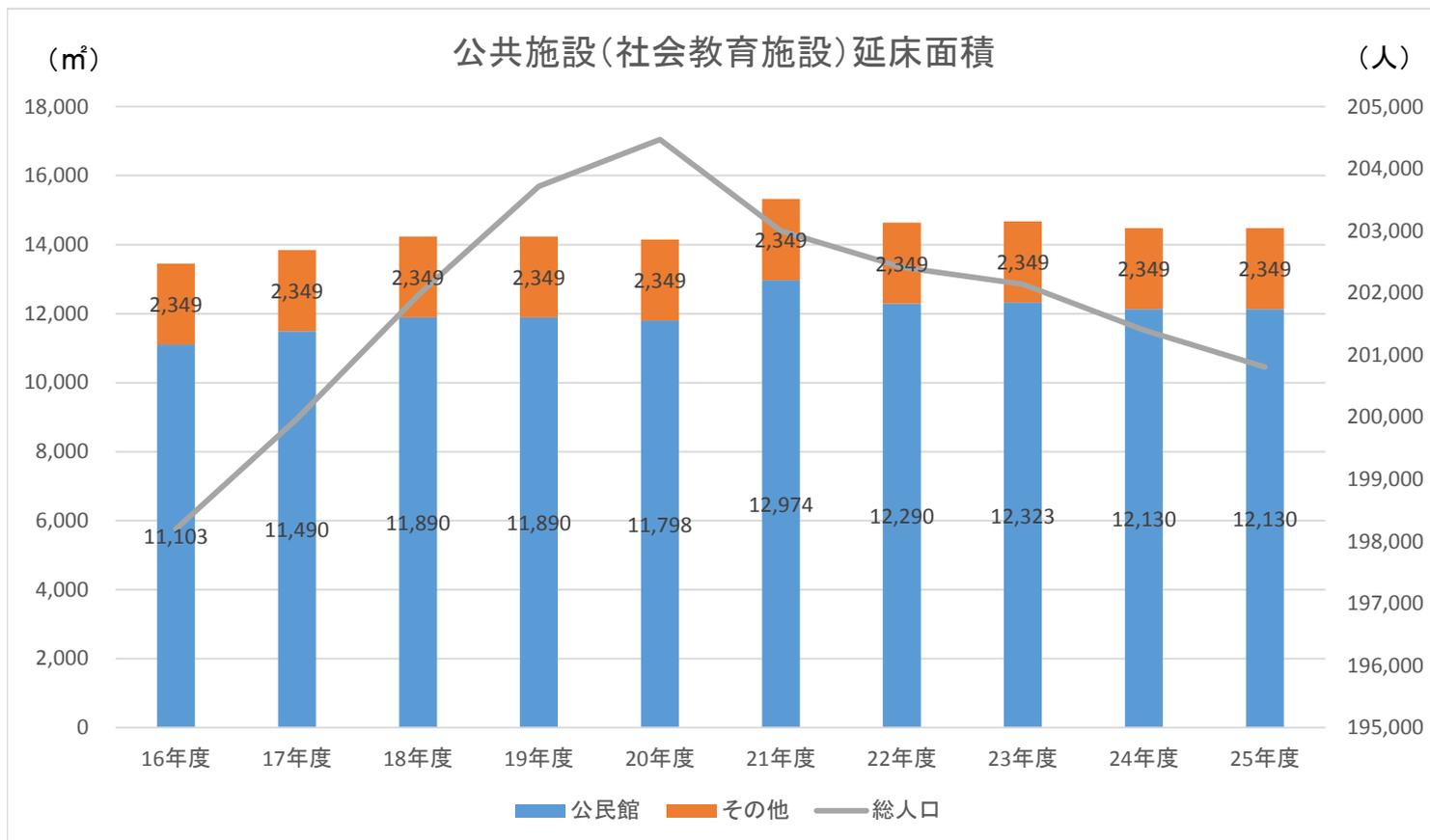
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	歳入歳出決算書(各年度)	
2	鈴鹿市	統計要覧	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	公共施設延床面積は、概ね55万m ² 程度で推移している。
2	
3	

①グラフ



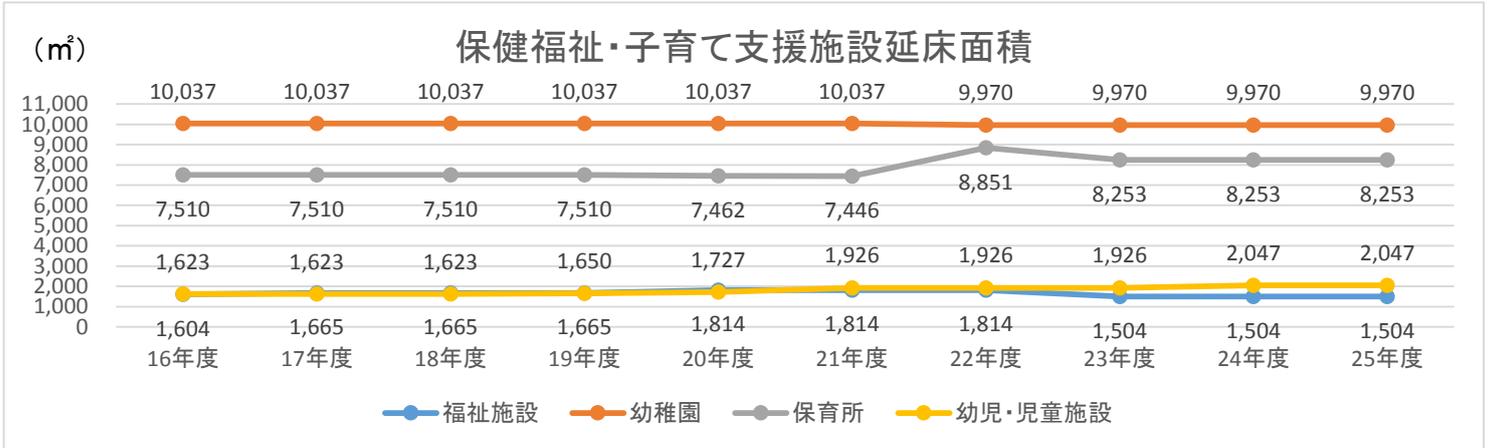
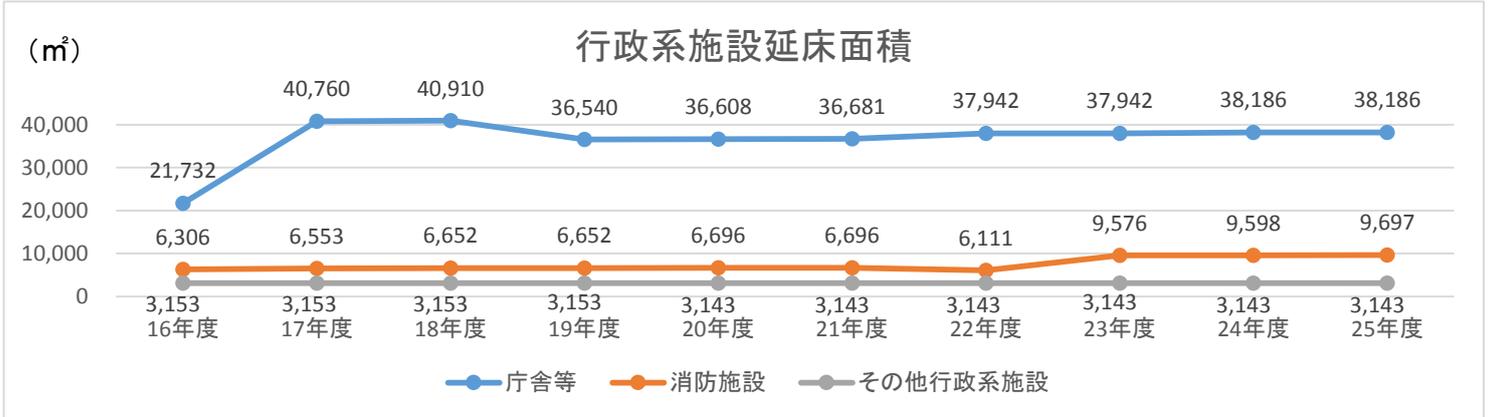
※その他＝その他教育施設のうち(一ノ宮・玉垣教育集会所, ふれあいセンター, 人権教育センター)
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	歳入歳出決算書(各年度)	
2	鈴鹿市	統計要覧	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	公共施設(社会教育施設)延床面積は、概ね14,000m ² で推移している。 ※平成21年度の増加要因は稲生及び若松公民館新築による。
2	
3	

①グラフ



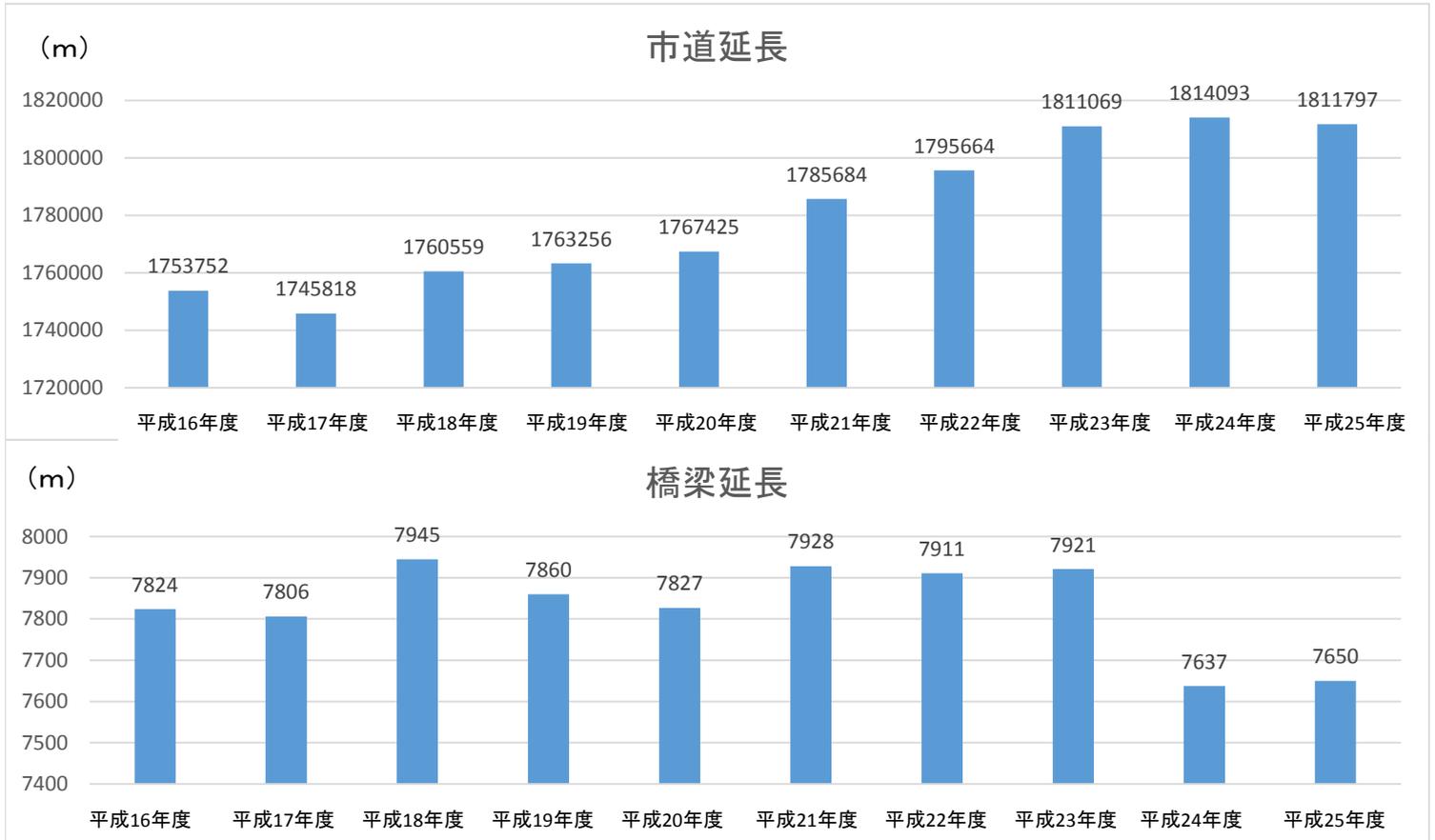
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	歳入歳出決算書(各年度)	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	行政系施設の延床面積は、平成17年度以降、大きな変化はない。
2	保健福祉・子育て支援施設について、放課後児童クラブ等の幼児・児童施設は増加傾向にある。また、保育所の平成22年度の増加分については、河曲保育所新築によるものである。
3	

①グラフ



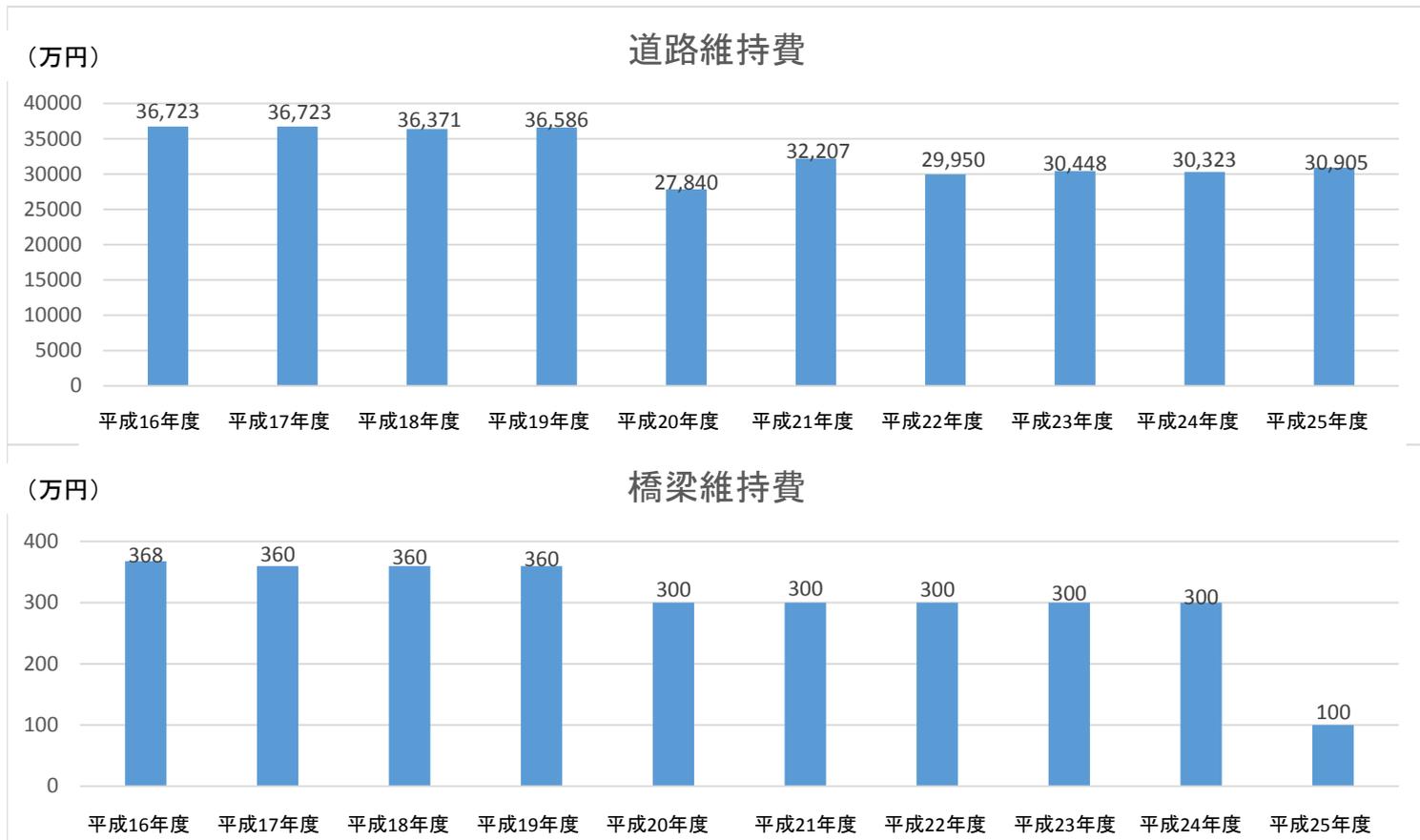
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	統計要覧	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	年々増加する傾向にあった市道延長については、平成24年度をピークに1800km台を推移している。
2	7800～7900mで推移していた橋梁延長については、平成24年度以降は7600m台を推移している。
3	

①グラフ



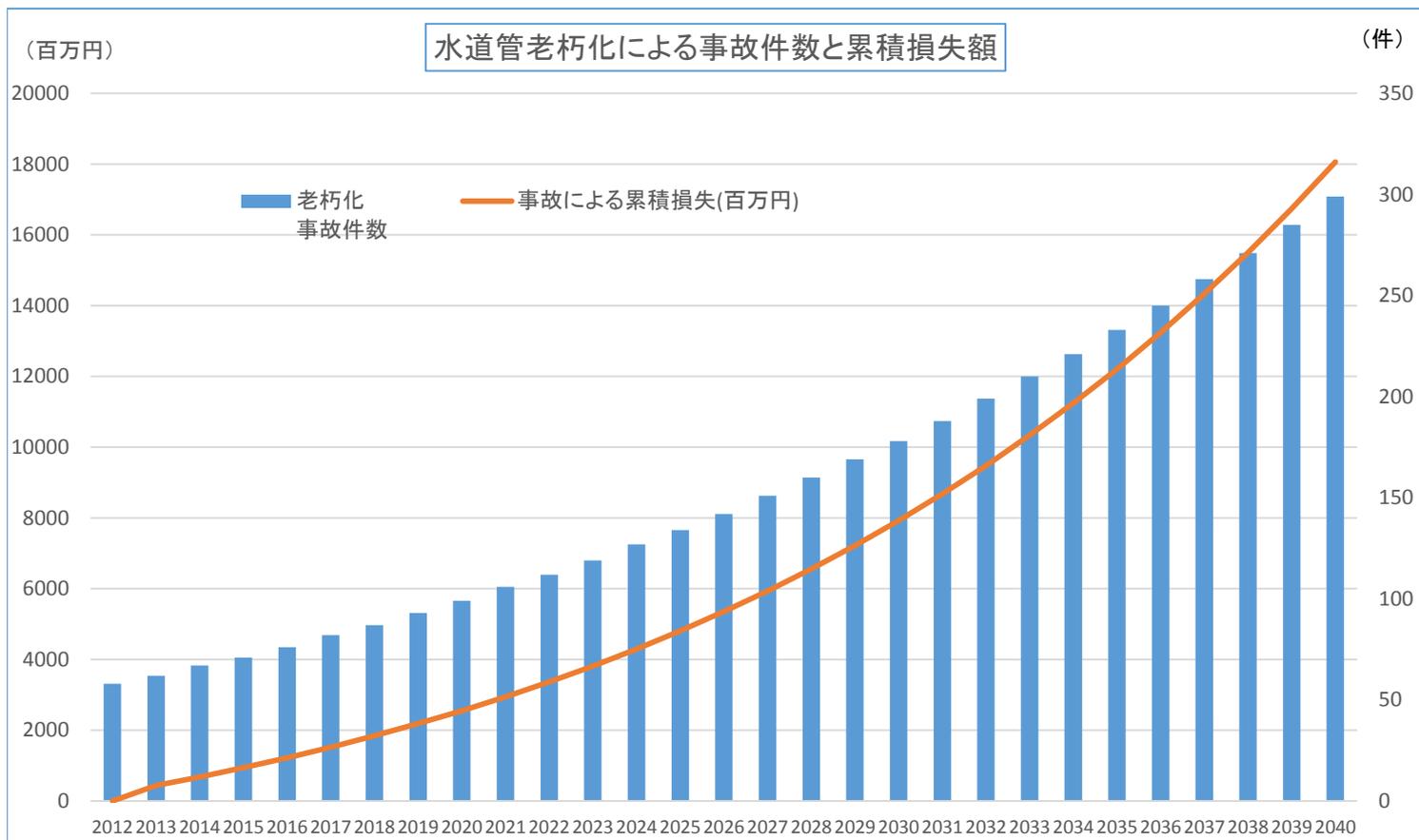
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	歳入歳出決算書(各年度)	
2	鈴鹿市	橋梁寿命化修繕計画	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	道路維持費については、平成21年度以降は3億円前後を推移している。
2	橋梁維持費については、平成25年度までは対処療法型の維持管理を行っていたが、平成26年度以降は50年の検討期間の中でより効率的な維持管理を実施するため予防保全型の維持管理を行なうため減少している。
3	

①グラフ



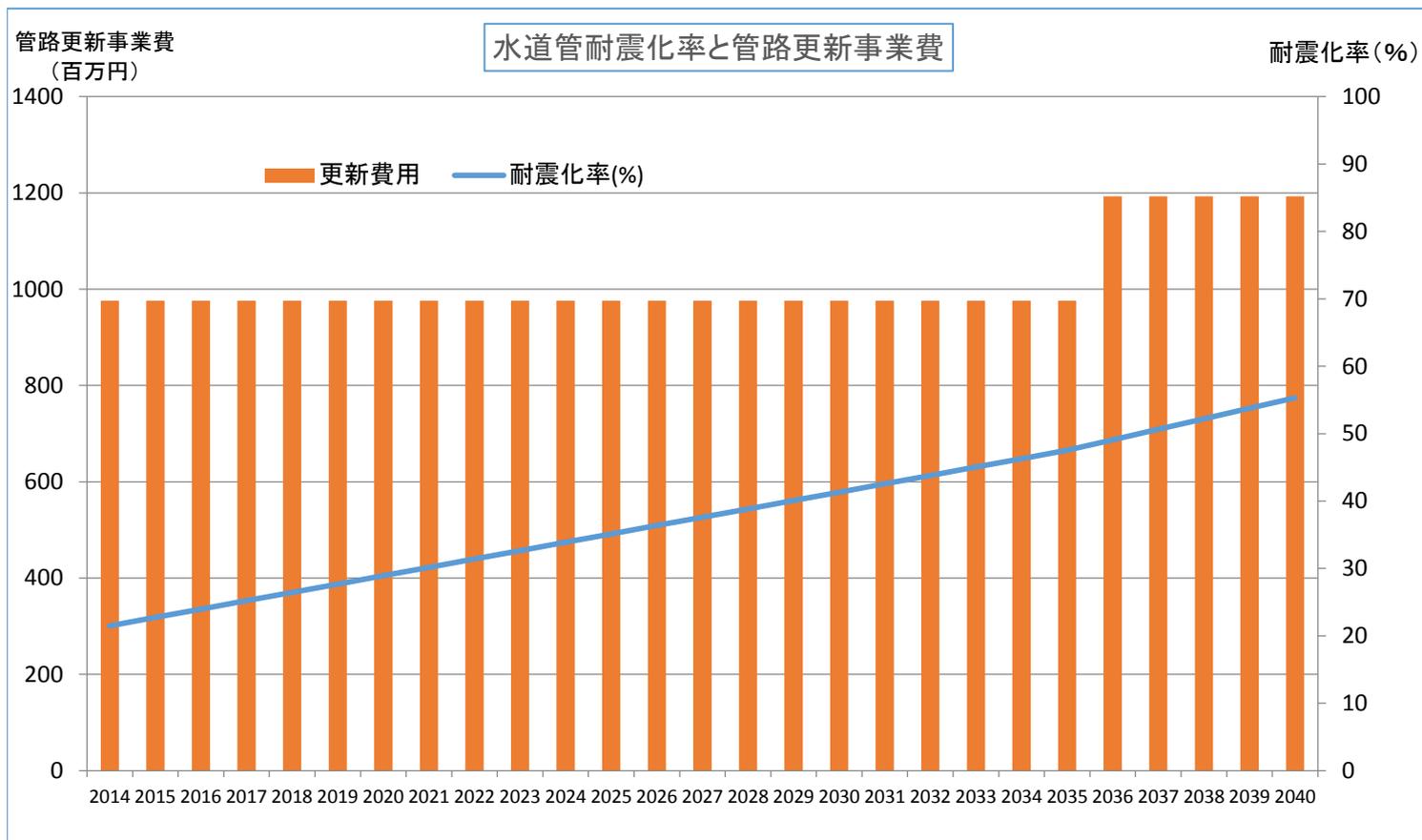
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市水道局	鈴鹿市上水道事業老朽管更新計画	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	老朽管を更新しない場合、それに起因する漏水事故とその損失額が年々増加する。
2	
3	

①グラフ



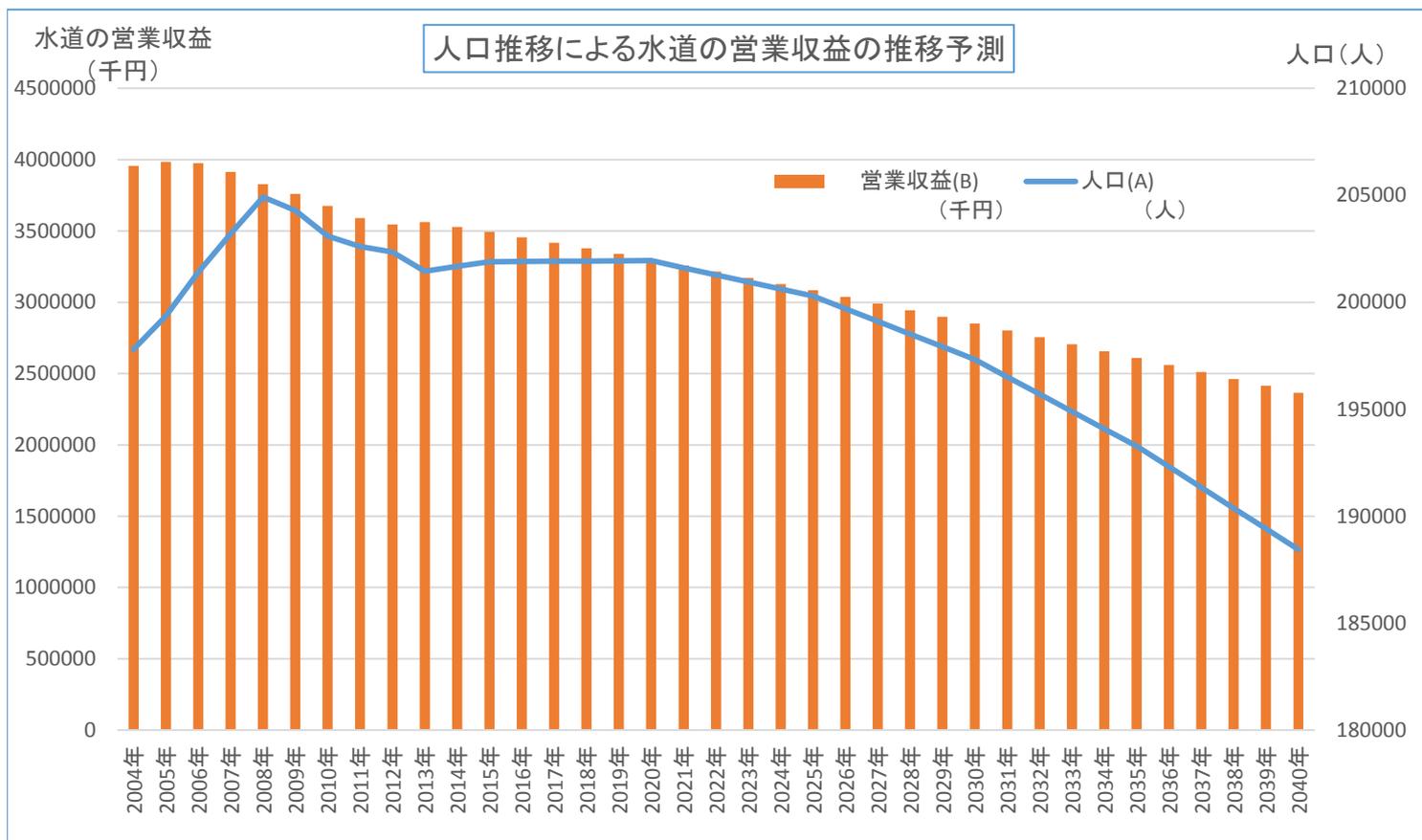
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市水道局	鈴鹿市上水道事業老朽管更新計画	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	耐震化率を上げていくために毎年10億円程度の維持費用が必要である。
2	
3	

①グラフ



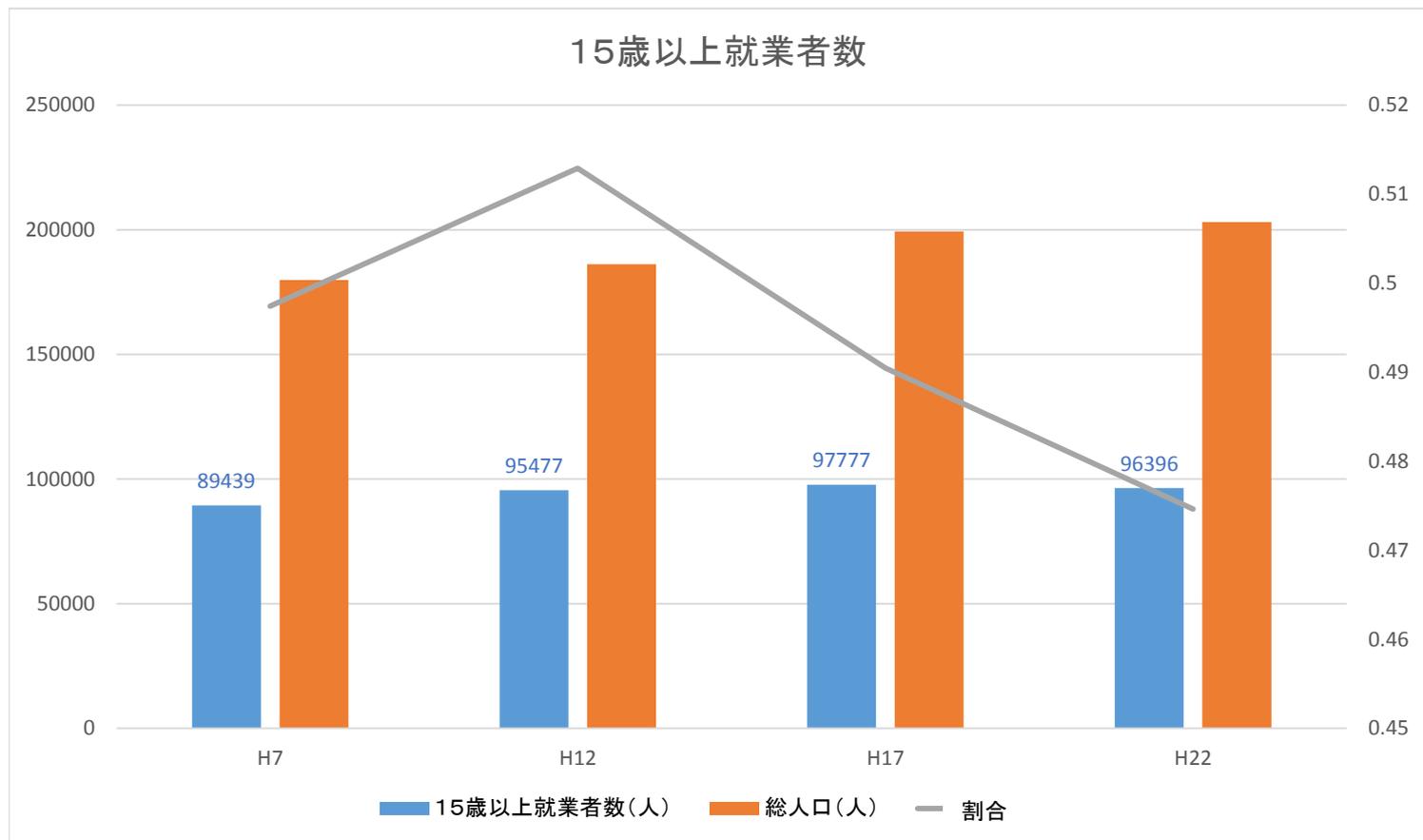
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市水道局	水道事業会計決算書	
2	国立社会保障・人口問題研究所	日本の地域別将来推計人口	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	人口推計に単純に当てはめて算出した営業収益の推移である。2040年には、2004年の営業収益から約4割減少すると予測される。
2	
3	

①グラフ



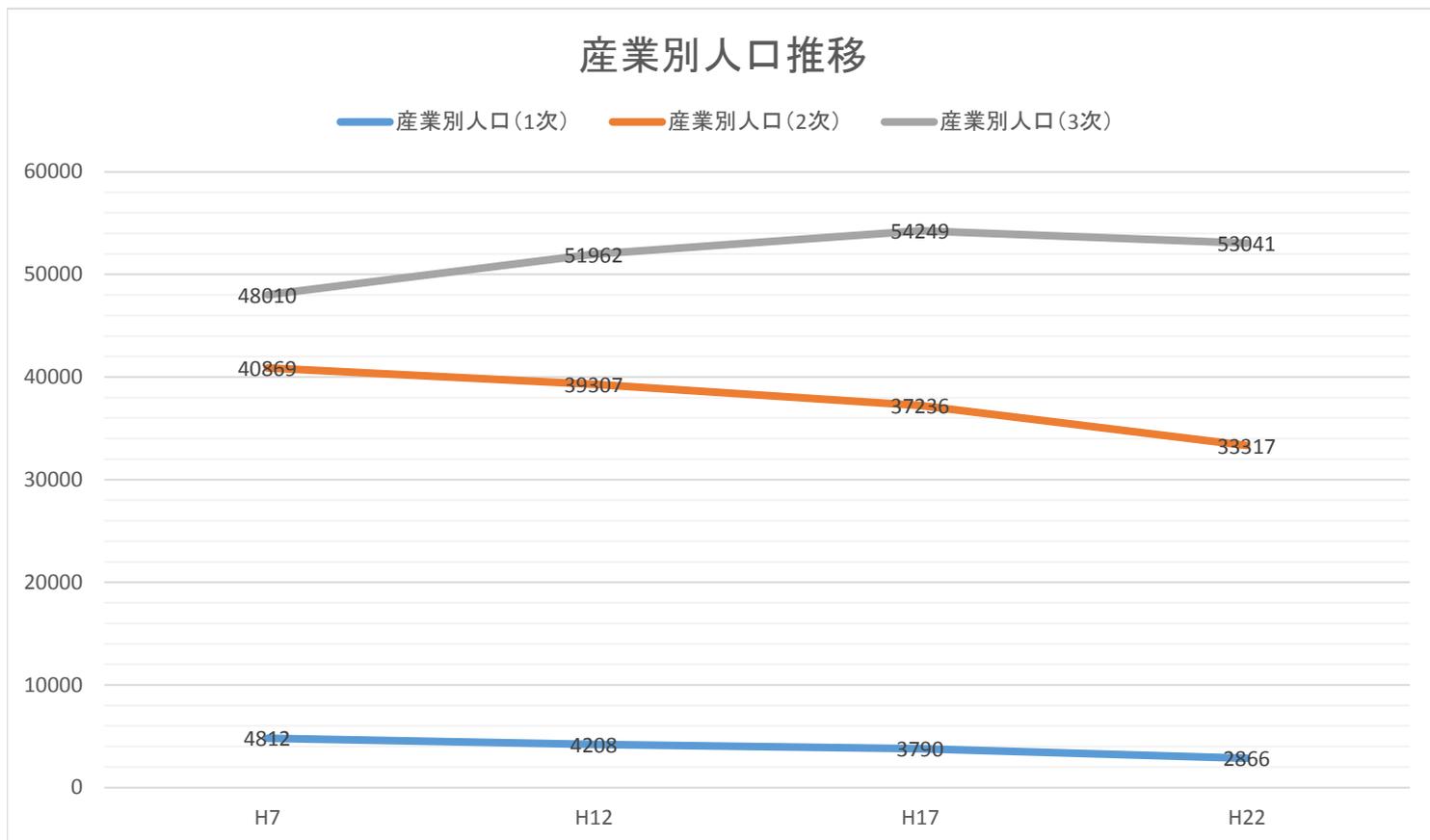
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	総務省統計局	国勢調査 15歳以上就業者数	
2	総務省統計局	国税調査 都道府県・市区町村別統計表	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	総人口が増加する中、平成22年の15歳以上就業者数は平成17年から約1,400人減少している。
2	
3	

①グラフ



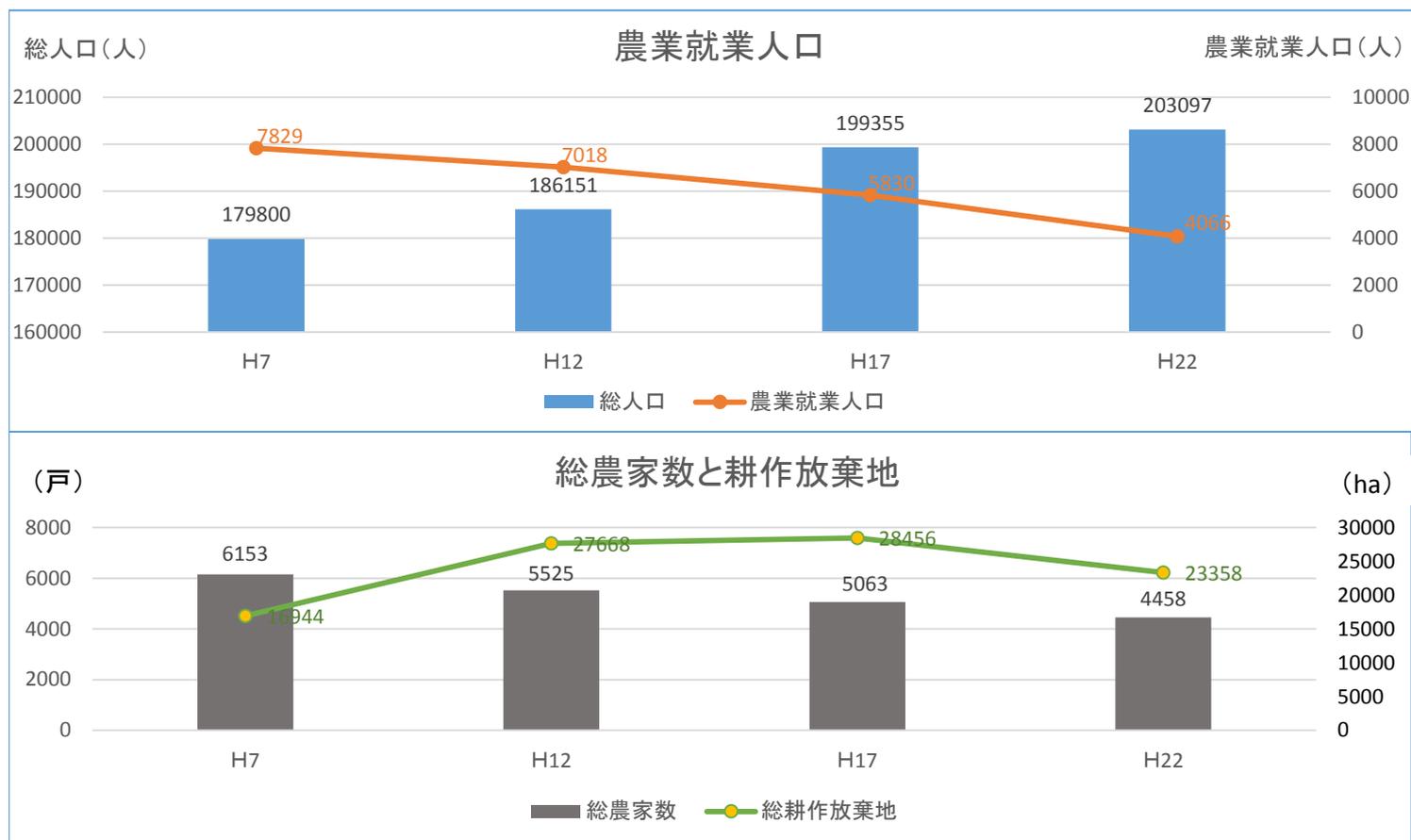
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	総務省統計局	国勢調査	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	1次産業の人口は、減少傾向にあり平成22年には平成7年の約6割になっている。
2	2次産業の人口は、減少傾向にあり平成22年には平成7年の約8割になっている。
3	3次産業の人口は、平成17年まで増加しているが平成22年は減少している。

①将来予測



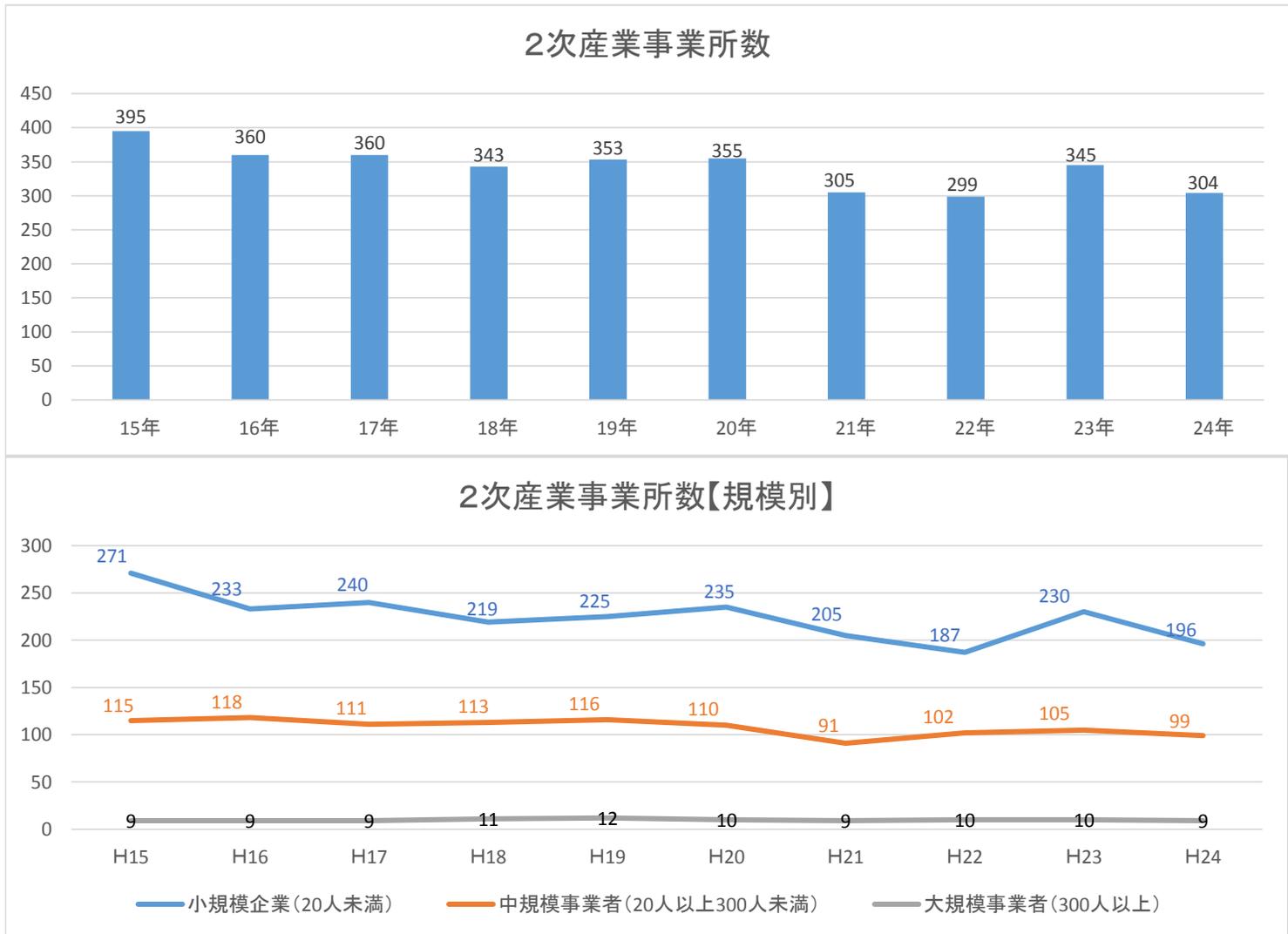
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	農林水産省(三重県生活安全部統計課)	農業センサス結果報告書(三重県の農業)	総農家数 年齢別の農業就業人口 総耕作放棄地面積

②経営環境診断結果

NO.	内容
1	農業就業人口は、減少傾向である(平成22年は平成7年の約半数に減少)。
2	耕作放棄地面積は増加していたが、平成22年は平成17年から約2割減少している。
3	

①グラフ



(データ出典元)

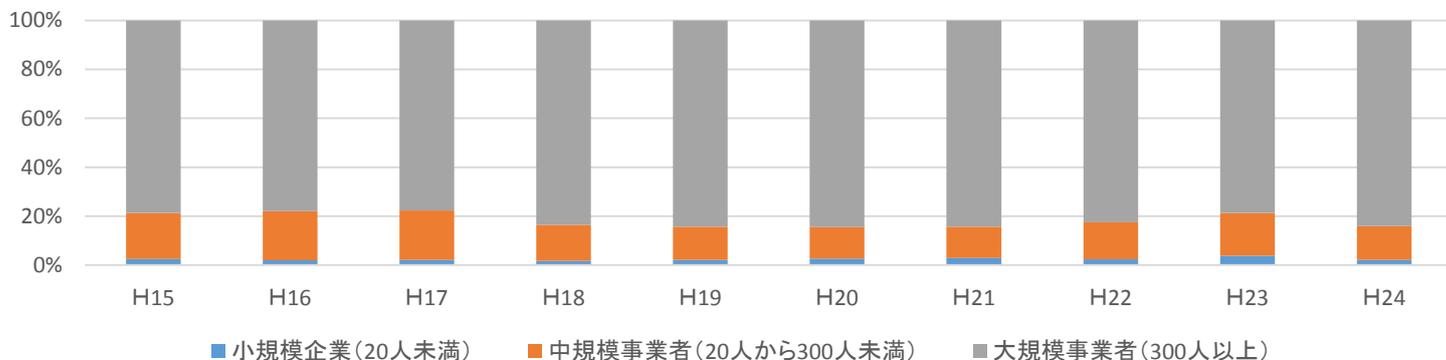
NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	経済産業省・鈴鹿市	工業統計調査	

②グラフから読み取れること

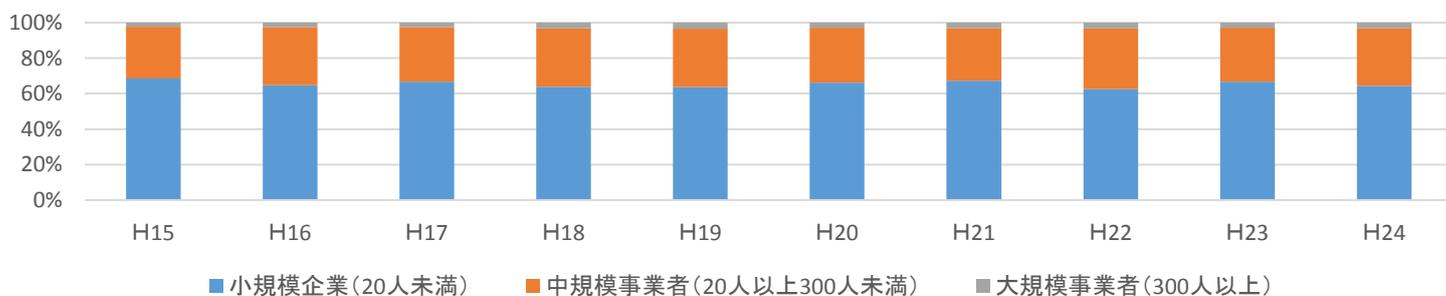
NO.	内容
1	第2次産業に関する事業所数は、概ね減少傾向にある。
2	規模別では、従業員数が300人以上の大規模事業所数の変動が少なく、20人未満の小規模事業所数は概ね減少傾向にある。
3	

①グラフ

2次産業 事業規模別出荷額シェア



2次産業 事業所数シェア



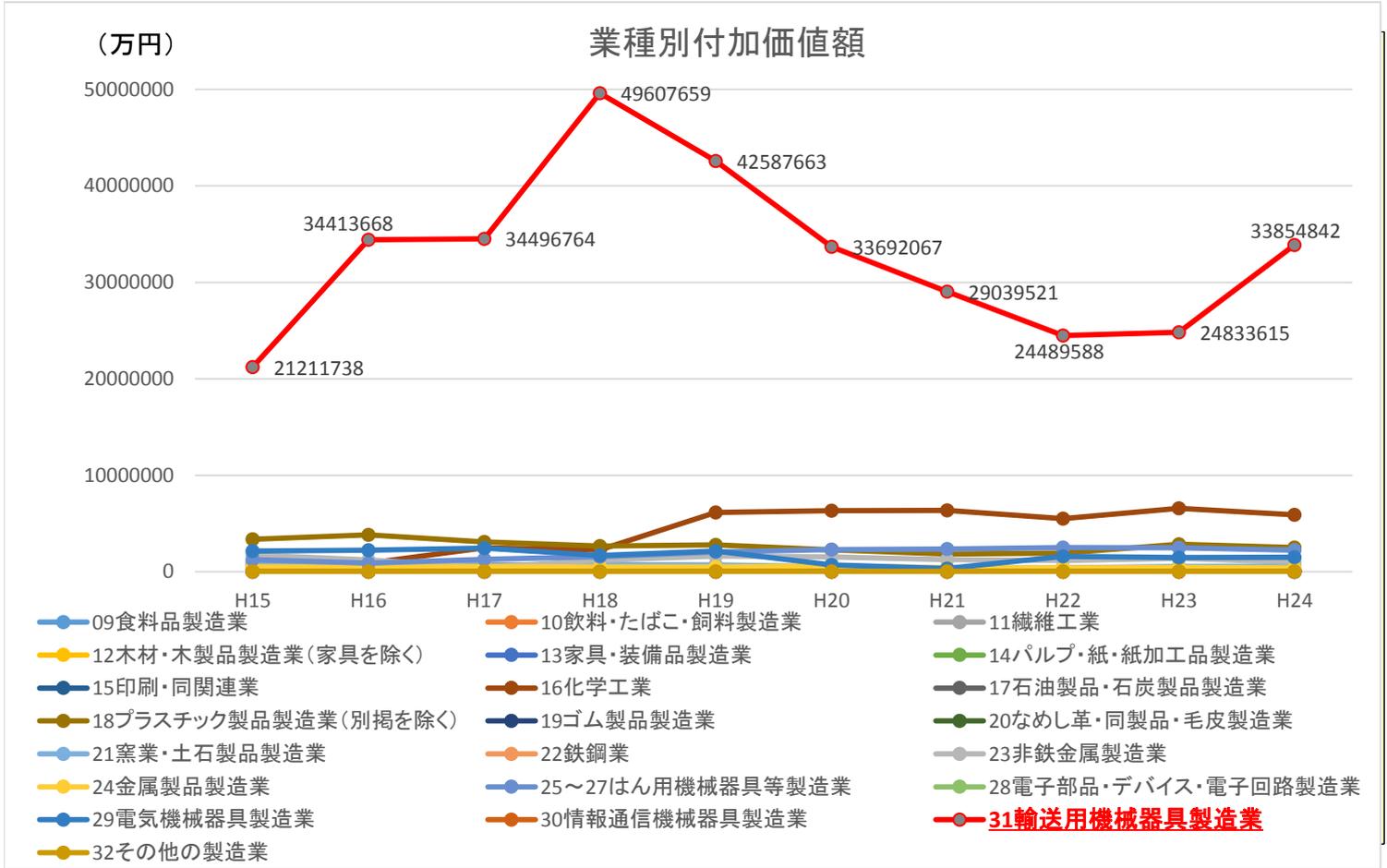
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	経済産業省・鈴鹿市	工業統計調査	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	事業所数のシェアでは極めて低い(2~3パーセント)大規模事業者が、製造品出荷額の約8割を占めている。
2	
3	

①グラフ



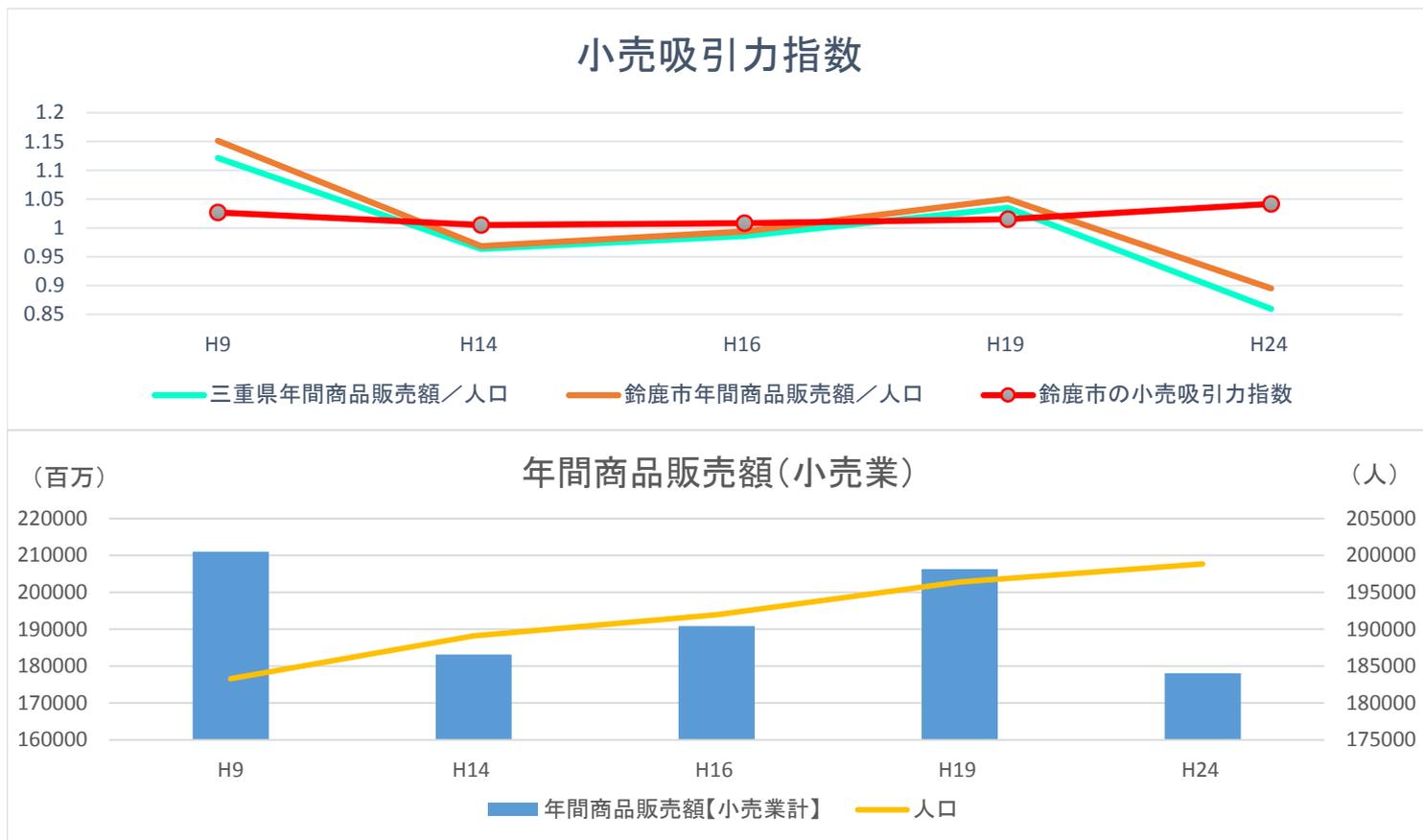
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	経済産業省・鈴鹿市	工業統計調査	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	主力産業である、輸送用機械器具製造業の付加価値額が他産業と比較して高い。 ※付加価値とは、企業等の生産活動によって新たに生み出された価値のことで、生産額から原材料等の中間投入額を差し引くことによって算出される。
2	
3	

①グラフ



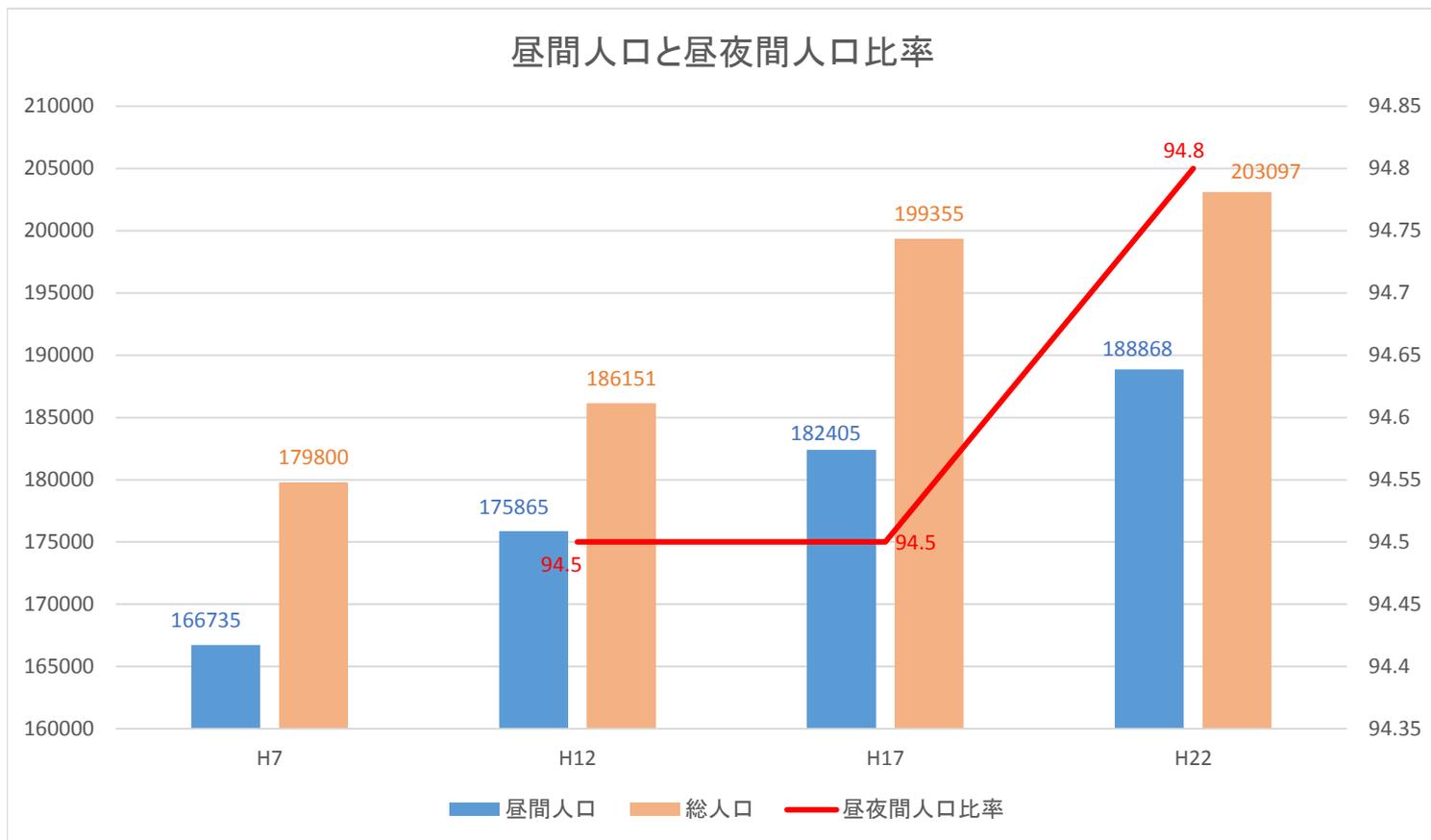
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	経済産業省	商業統計調査	
2	経済産業省・総務省	経済センサス活動調査	
3	総務省統計局	国税調査 都道府県・市区町村別統計表	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	地域が買物客を引き付ける力を表す指標である小売吸引力指数では、「1.00」を超えており、市外から買い物客を引き付けている状況が続いている。 ※指数が1.00以上の場合、買物客を外部から引き付け、1.00未満の場合、外部に流出していると見ることができる。
2	平成24年には人口が増加している一方、年間商品販売額は減少している。その傾向は、三重県全体・鈴鹿市内の双方に共通して言える。
3	

①グラフ



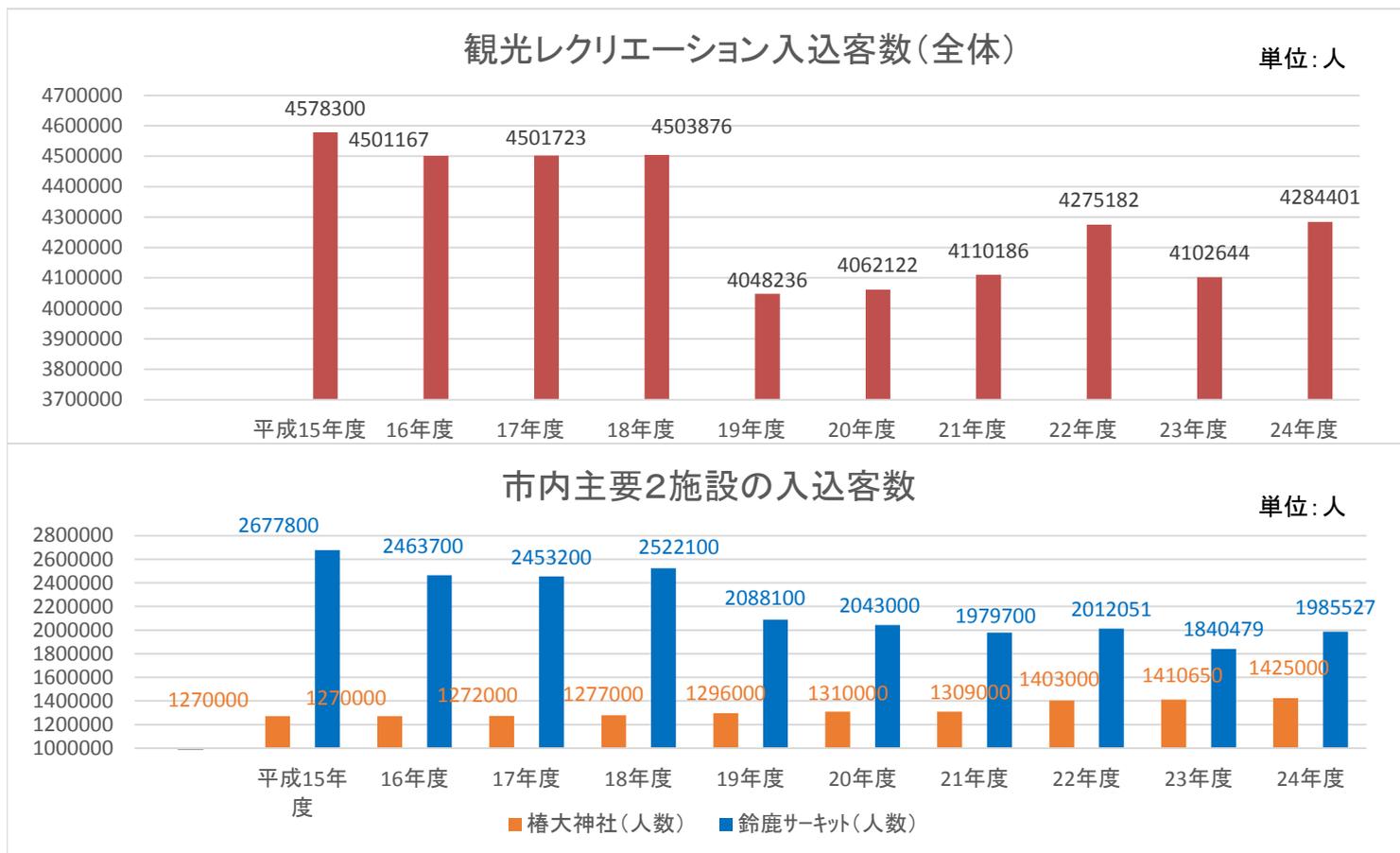
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	総務省統計局	国勢調査 昼間人口	地域別統計データベース
2	総務省統計局	国勢調査 昼夜間人口比率	地域別統計データベース

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	昼間人口については、上昇している。 ※昼間人口(ちゅうかんじんこう)は、常住人口(夜間人口)に他の地域から通勤してくる人口(流入人口)を足し、さらに他の地域へ通勤する人口(流出人口)を引いたもの。
2	平成22年の昼夜間人口比率は、平成17年から0.3ポイント上昇している。 ※常住人口(夜間人口)100人あたりの、昼間人口の割合。
3	

①グラフ



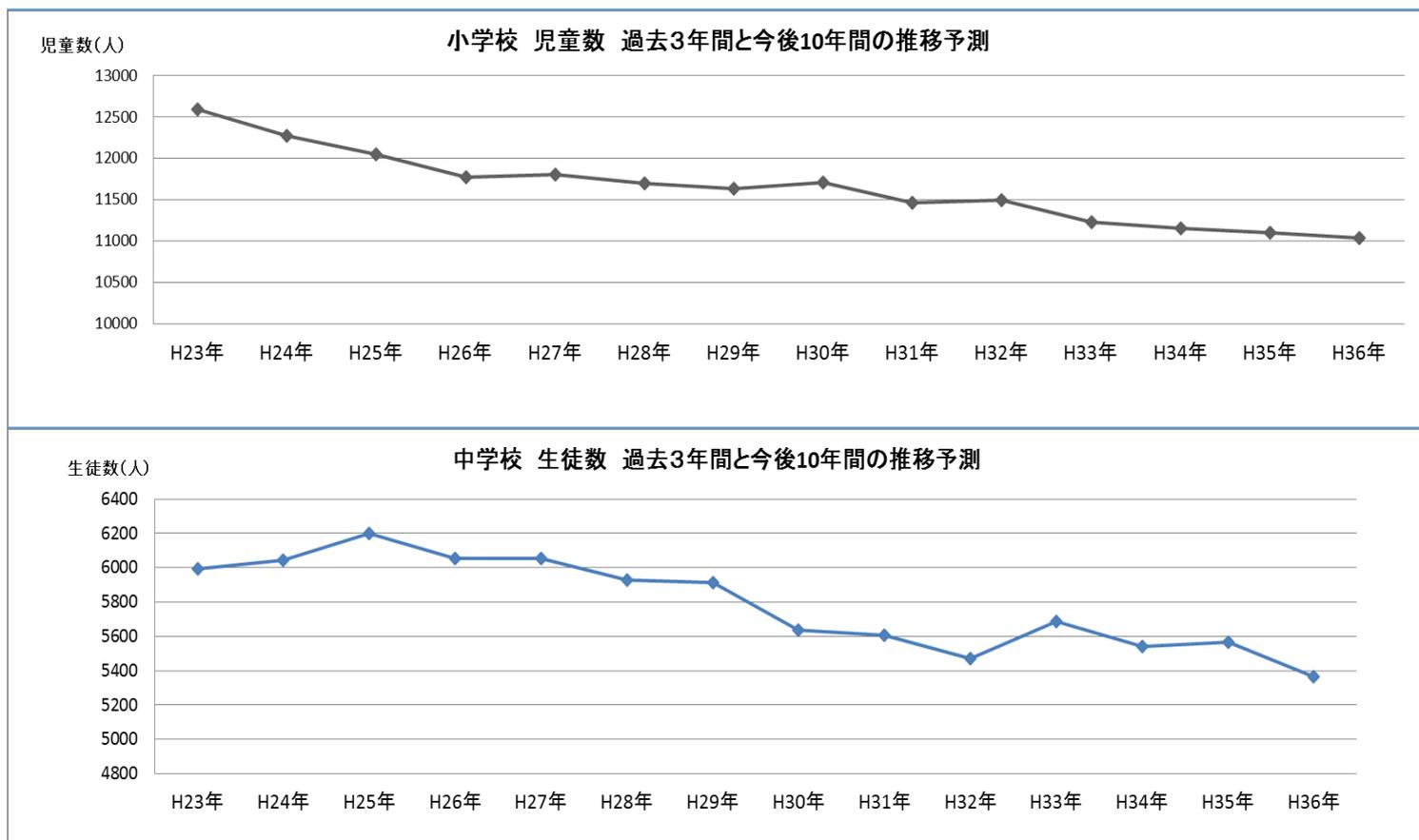
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	観光レクリエーション入込客数	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	450万人台で推移していた観光レクリエーション入込客数であるが、平成19年度より落ち込み、400から420万人台で推移している。
2	入込客数が最も多い鈴鹿サーキットは減少傾向にある一方、入込客数が二番目に多い椿大神社は増加傾向にある。
3	

①グラフ



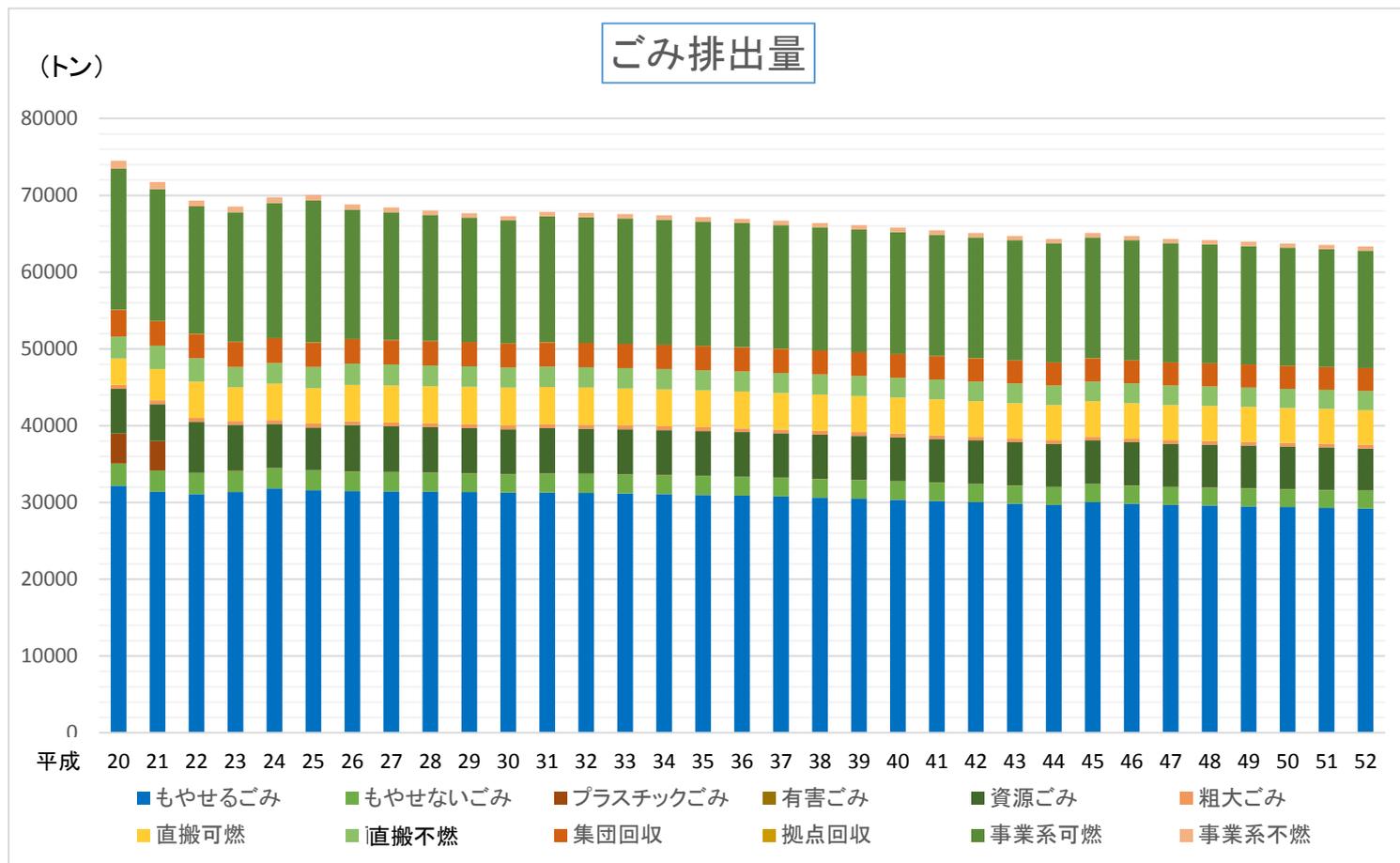
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市教育委員会事務局	平成26年度及び平成27年度以降10年間の児童生徒数	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	小学校児童数は、平成26年に11,772人であるが、平成36年には11,032人となり、10年間で740人減少すると予測される。
2	中学校生徒数は、平成26年に6,051人であるが、平成36年には5,367人となり、10年間で684人減少すると予測される。
3	

①グラフ



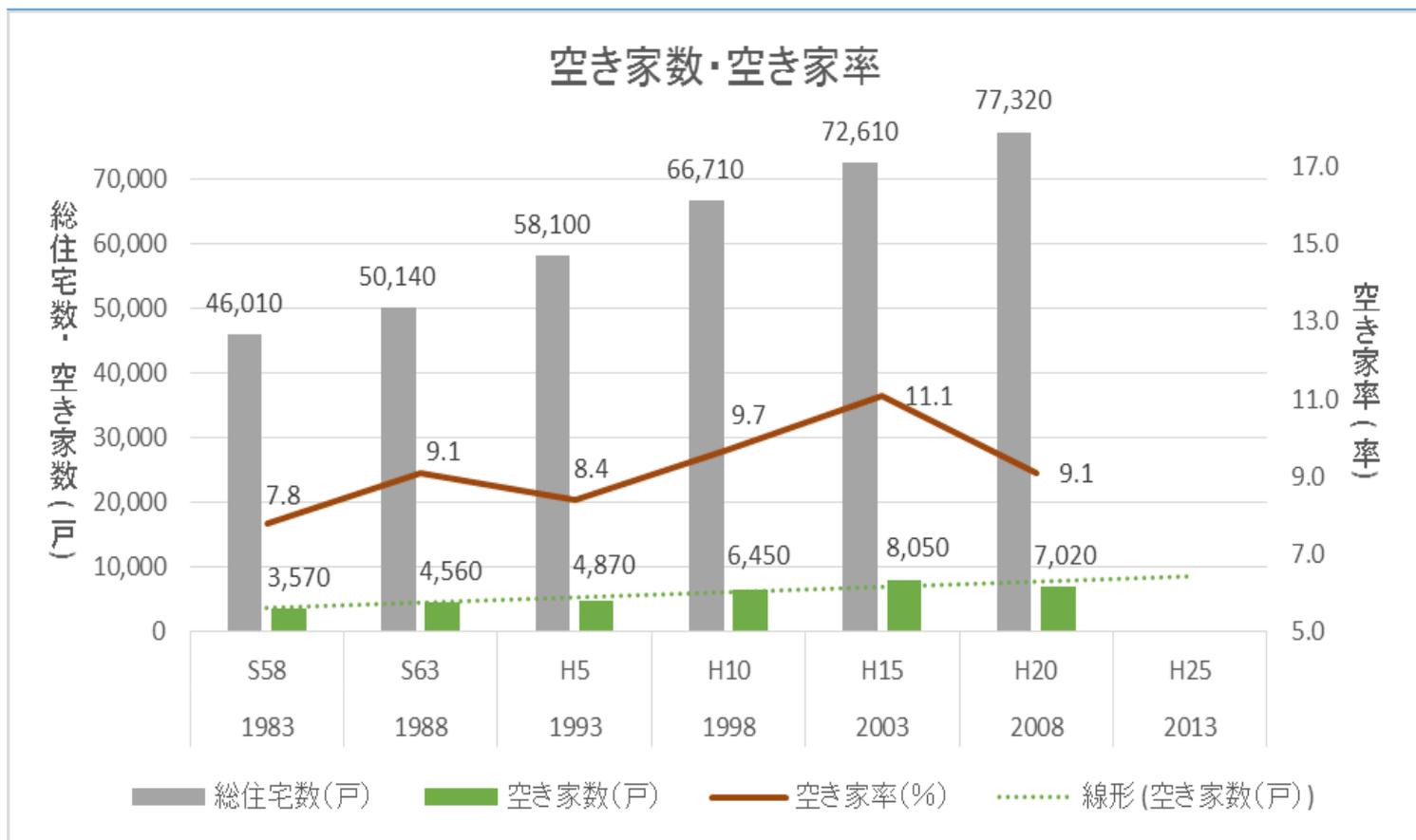
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	一般廃棄物(ごみ)処理基本計画	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	ごみの搬出量については、減少傾向にある。
2	
3	

①グラフ



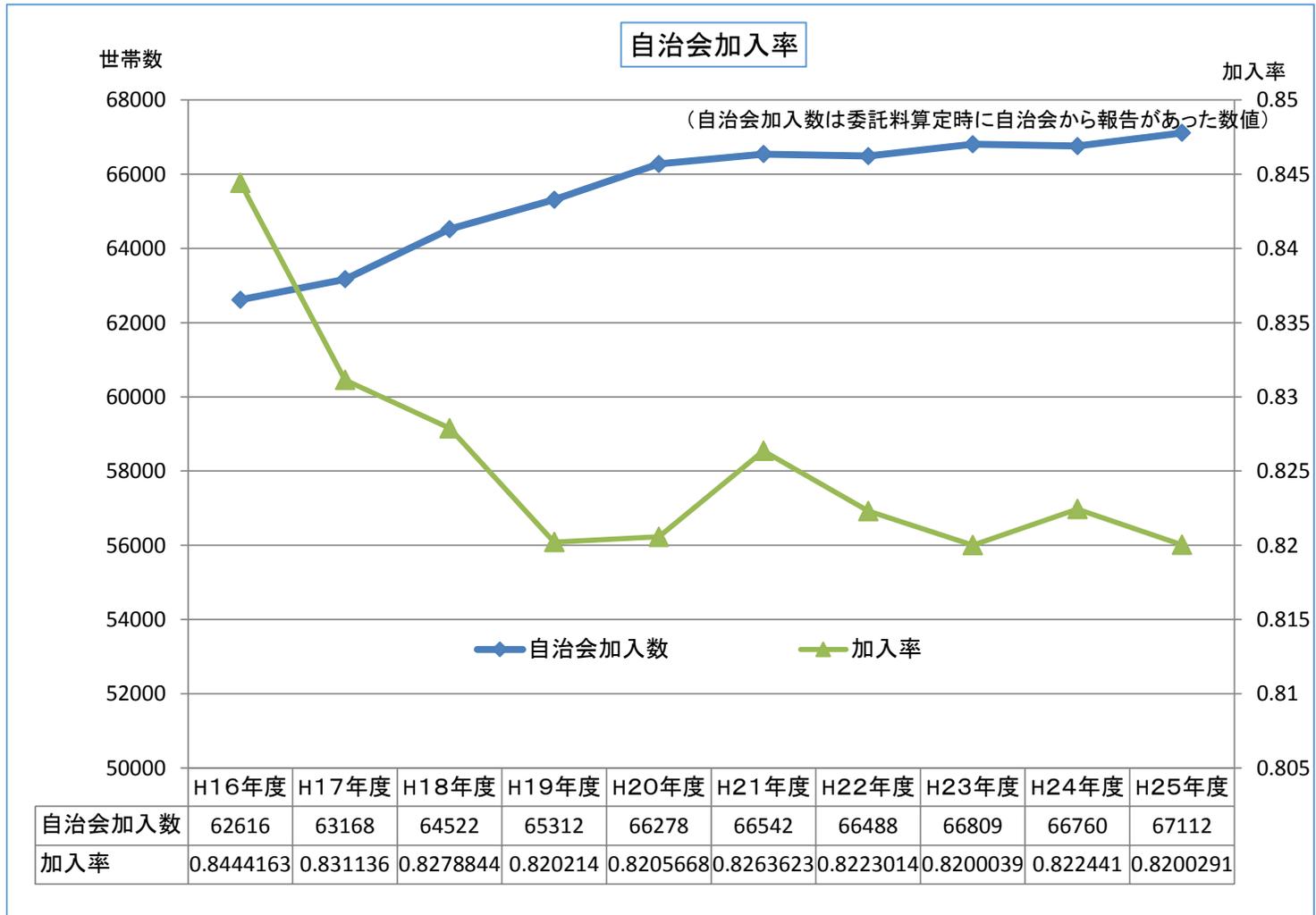
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	総務省統計局	住宅・土地統計調査	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	本市の平成15年と20年を比較すると空き家数は減少しているが、直近の調査(平成25年)結果速報によると、全国の空き家率は13.5%と過去最高となっている。
2	
3	

①グラフ



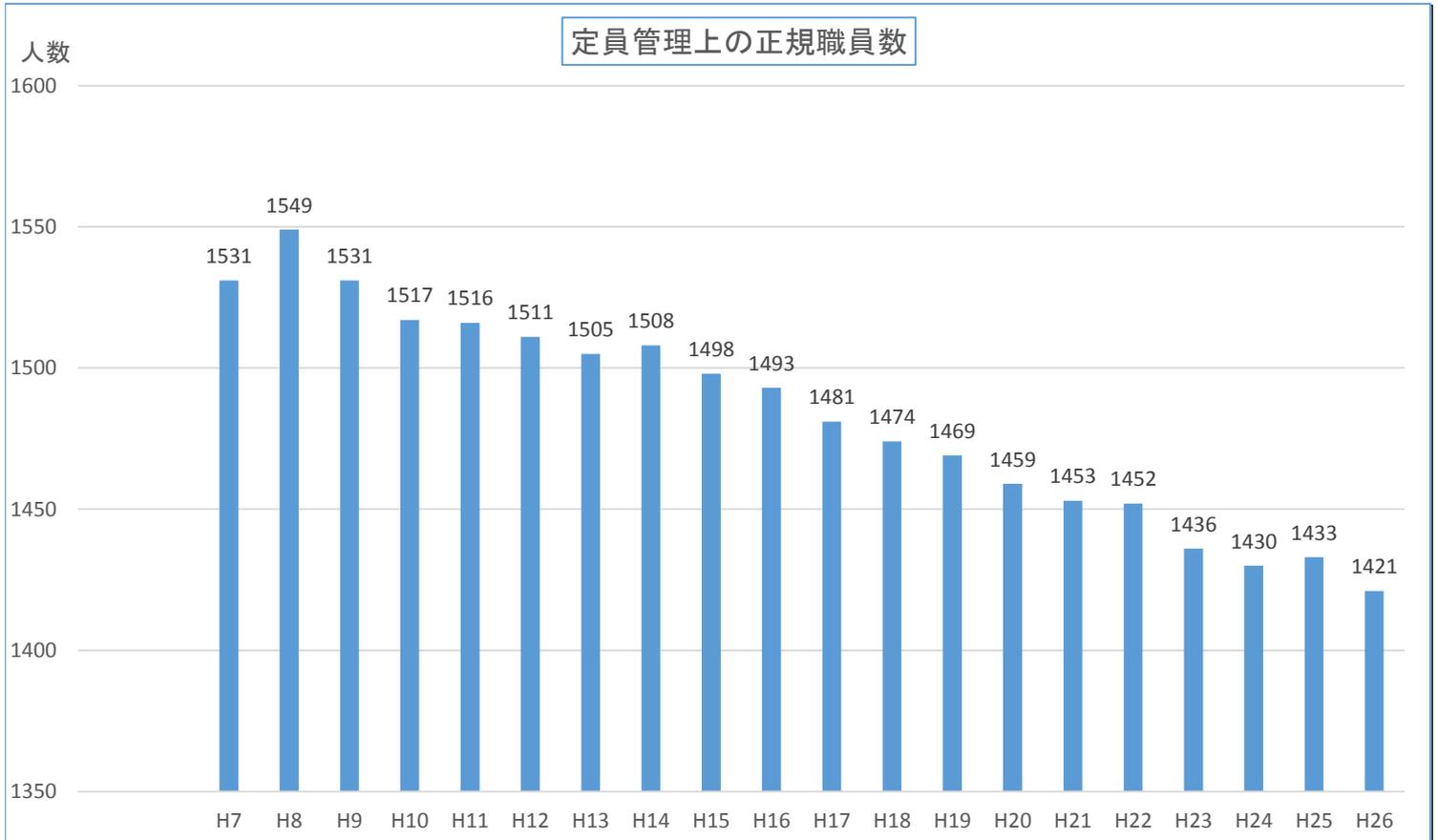
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	自治会からの報告件数	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	自治会加入率は、平成19年度以降は、やや横ばいの状態が続いているが、全体としては減少傾向を示している。
2	
3	

①グラフ



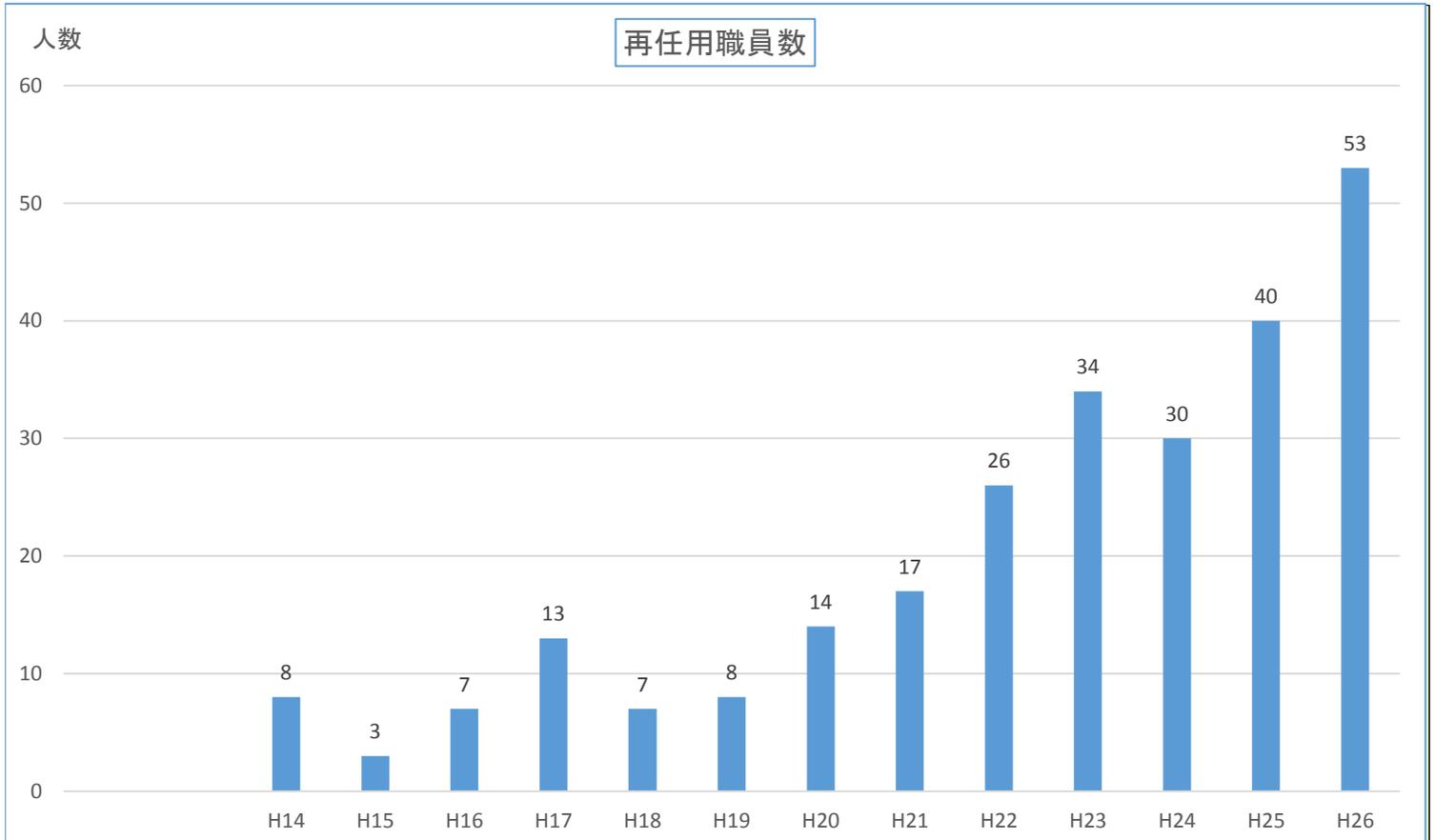
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	人事行政の運営等の状況について	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	平成7年度には1,531人であった正規職員数は、平成26年度には1,421人(フルタイム再任用職員2人含む。)に減少している。
2	
3	

①グラフ



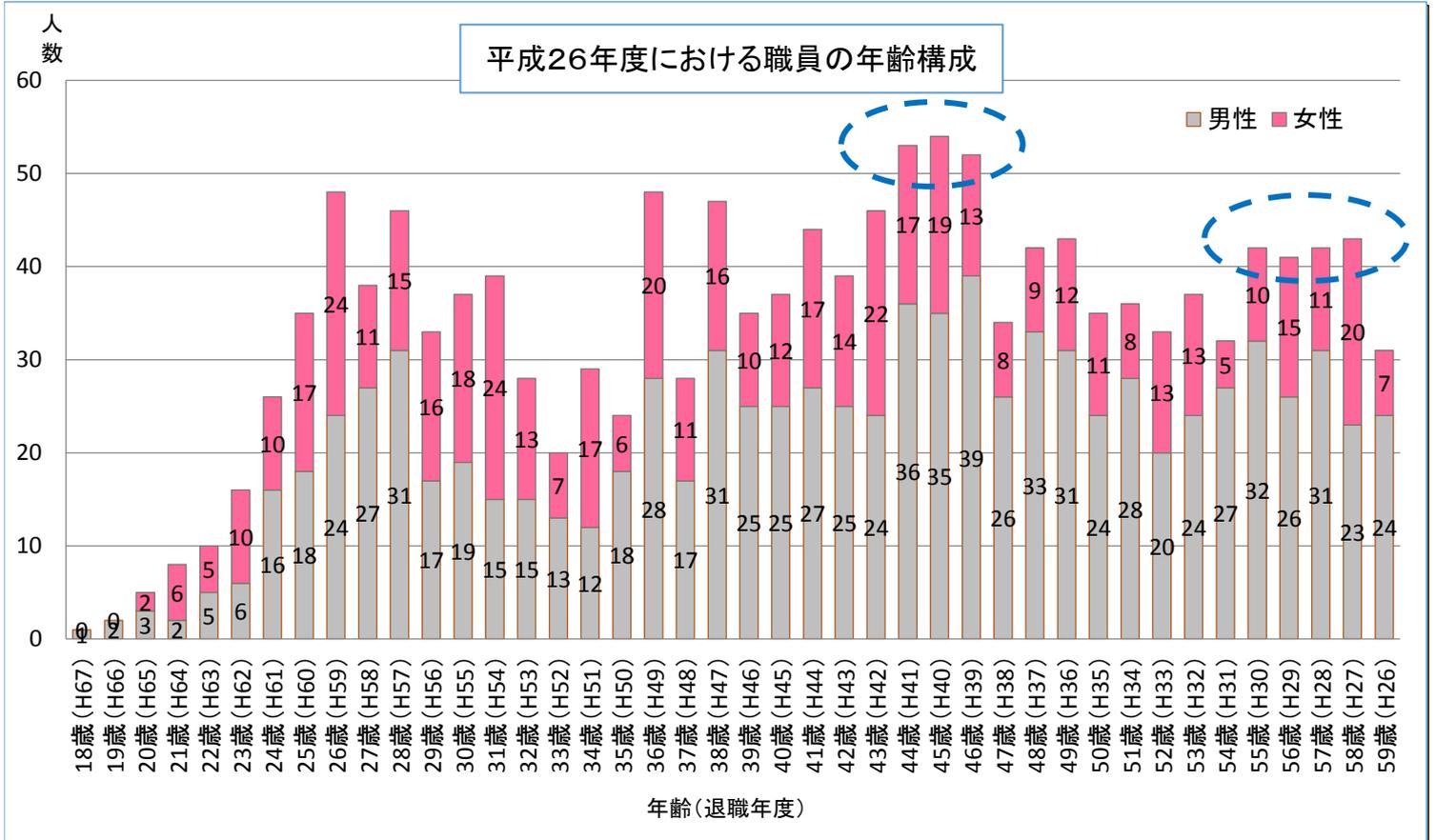
(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	人事行政の運営等の状況について	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	再任用職員は年々増加傾向にある。
2	
3	

①グラフ



(データ出典元)

NO.	団体名	資料名	記載箇所
1	鈴鹿市	人事行政の運営等の状況について	

②グラフから読み取れること

NO.	内容
1	平成27年度から30年度までの4年間で、毎年度40名を超える職員が退職する。 なお、平成39年度から41年度までの3年間では、毎年度50名を超える職員が退職する。
2	
3	